明治四十二年三月二十日發行

（明治二十一年本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百三十二號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百參拾貳號目次

講演

叢談

家庭衛生

質疑

雜報

大日本婦人衛生會記事

大日本婦人衛生會

總會及ひ懇親會豫告

本會の總會及ひ懇親會は來る四月下旬を以て開催致すべく筈に御座候間豫め御了承相成度此段會員各位に稟告す

追て會場及ひ時日等は決定次第御報可申上候

●四月例會は例に依りて休會致候間此段廣告す

明治四十一年三月

私立大日本婦人衛生會

日本皮膚科學會第九回總會

▲會日　三月二十五日(木曜)二十六日(金曜)

▲會場　福岡醫科大學構內

宿題

(一)黴毒ノ診斷及療法

(二)癩病ノ豫防及療法

(三)攝護腺ノ疾患及療法

右宿題其他問題ニ就テ參會演說御希望ノ向ハ必ズ三月十日マデ演題御記入ノ上當事務所ニ御申込相成度候

明治四十二年三月

東京市本郷區龍岡町二十番地

日本皮膚科學會事務所

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆我等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を怠るもの〻如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人相謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學術經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を雜誌に記して會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會設立趣意の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉に告げ其賛成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十一月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

●第四條　入會の節は姓名族稱住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手數料卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費にすることあるべし

●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす

●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け記録雜誌務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

●第十三條　臨時指名委員の件

●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は一ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す

●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし

●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の諸義演説談話を囑託し會員をして之を聽講せしむるものとす

●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演説等を傍聽せしむるを得（但衣服は總て質素たるべき事）

●第十九條　講義演説等は男子の傍聽を禁ず

●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと

●第廿一條　毎年三月の會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其費用を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に頒附すべし

●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは什器物品等を本會に寄贈する者あるときは本會々長の名を以て禮狀を贈り寄附者の姓名及品目を滿册に登録し尚本會雜誌を以て報告すべし

●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）

●第卅三條　會費東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麹町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし

●第卅四條　會員中若し本會の障礙となるべき所爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麹町區富士見町二丁目廿二番地　私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃周子殿下

會長　侯爵夫人鍋島榮子

副會長　男爵夫人濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　羽田三緒子
同　岡田德子
同　高木かう子
同　山本多穗子
同　松平芳子

評議員　三浦敎子
同　石川貞子
同　岩下ゆか子
同　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　穗積歌子
同　土肥多越子
同　緒方悅子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人加藤鈴子
同　片山龜子
同　吉武輝枝子
同　丹波貞子
同　高橋孝子
同　田村きよ子
同　男爵夫人南部限子
同　中濱芳子

評議員　子爵夫人山口貞子
同　松井正子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮本樂子
同　宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　伊澤信平君
色川圀士君
醫學博士　伊東祐彦君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
理學博士　石川千代松君
[illegible]　岩井禎造君
醫學士　石原久君
醫學士　磐瀬雄一君
醫學士　石原喜久太郎君
男爵　濱尾新君
醫學博士　濱田玄達君
法學博士　鳩山和夫君
東京　萩原彌四郎君
醫學博士　芳賀榮次郎君
長谷川泰君
新潟　長谷川一詮君
小兒科　小原賴之君
醫學博士　岡田榮吉君
醫學博士　林春雄君
醫學博士　佐藤達次郎君
醫學博士　緒方正規君
步兵中佐　堀內文次郎君
醫學博士　土肥慶藏君
醫學博士　岡田和一郎君

醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　大澤岳太郎君
一等藥劑官　恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
醫學士　渡邊房吉君
男爵　加藤弘之君
醫學博士　加藤照麿君
醫學士　賀古鶴所君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　川上雅吉君
醫學博士　樫田龜一郎君
醫學博士　金杉英五郎君
醫學博士　笠原光興君
醫學士　唐澤光德君
醫學士　河野衛君
醫學博士　高橋順太郎君
ドクトル　高山紀齋君
醫學博士　高木兼寬君
法學博士　高木豐三君
醫學博士　田代義德君
新潟　田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　高田耕安君
新潟縣病院長　高橋辰五郎君
藥學博士　丹波敬三君
醫學士　高橋貞碩君
藥學博士　田原良純君
醫學士　田村光顯君
醫學博士　久保猪之吉君
醫學士　米山彥郎君
二等軍醫正　星野葆光君
醫學博士　宮本叔君
三等軍醫正　横井忠圖君
帝國教育會長　辻新次君
理學博士　坪井正五郎君
醫學博士　長與稱吉君
男爵　南部甕男君

藥學博士　長井長義君
醫學博士　遠山椿吉君
醫學博士　中濱東一郎君
醫學士　黑田直通君
醫學士　栗本[illegible]勝君
海軍中佐　小笠原長生君
醫學士　村松鋤三君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　栗本東明君
醫學博士　山田鐵藏君
醫學士　山田弘倫君
醫學士　山根正次君
[illegible]　山川春二君
衛生所技手　丸山長四郎君
ドクトル　松山陽太郎君
ドクトル　小木信六郎君
盲啞學校長　小西信八君
廣島　小泉貫君
醫學士　古川榮君
東京　布施正[illegible]君
男爵　後藤新平君
大學名譽教授　エ、ベルツ君
醫學士　甲野棐君
寺田勇吉君
醫學士　寺田牧作君
醫學士　寺田織尾君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　足立寛君
ドクトル　富士川游君
高崎醫會長　土谷全次君
產科婦人科　水原漸君
ドクトル　久保田誠脇君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學士　淺田洪君
醫學博士　朝倉文三君
ドクトル　朝山義六君
醫學博士　吾妻勝剛君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　櫻井郁二郎君
ドクトル　佐伯理一郎君

醫學博士　榊順次郎君
醫學博士　榊保三郎君
醫學士　佐藤得[illegible]君
醫學博士　櫻井恒次郎君
醫學博士　桐淵鏡次君
醫學士　北村橋造君
醫學博士　北島多一君
醫學博士　北川乙治郎君
醫學博士　木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學博士　三浦守治君
醫學博士　三浦謹之助君
小兒科專門　宮本仲君
理學博士　[illegible]作作吉君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三宅秀君
醫學博士　三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學博士　島村俊一君
醫學博士　弘田長君
ドクトル　日高昂君
ドクトル　須田卓爾君
醫學士　瀧川德君
醫學博士　木村德衛君
醫學博士　森林太郎君
醫學士　笹川三男三君
醫學士　波多野惇君
醫學博士　吳秀三君
ミス　リンテル
ミス　ヒユース
ミセス　コーツ
ドクトル　菊池循一君
醫學士　橋本左武郎君
醫學士　鳥居春洋君
醫學博士　土田卯三郎君
ドクトル　佐藤運雄君
ドクトル　西山信光君
醫學士　澤崎寬猛君

講演

萎縮腎に就て

醫學士　田村光顯

私は田村光顯と申しまして醫者でございます、丁度三年程前と記憶して居りまするが、此會へ出まして何か御話をするやうにと副會長さんから御話がありまして、實は其際には本會はどう云ふやうなことを御話申上げて宜いのやら承知しませんでした爲めに、何か通俗的に話をしろと云ふ御命令でありましたから、如何にも程度の低い、何か臺所の御話か何かを申上げたと覺えて居ります、其後手前の家内も此會の會員末席を汚して居ります爲めに會誌を頂戴致しますものでありますから、段々それを借りて見まするさ、中々各講師方の御話も、又質問せらるるところの方々の御思想も衞生上の事に就ては驚くべき進歩をして居られるのを發見致しましてひどく恥入つた次第であります、元來の訥辯の上に斯の如き詰らないことを申上げましたから最早會員の御方方も定めて御懲りになつて、もうあの男の話には懲懲したと仰有つて命令は下るまいと思つて居りましたが存外もう一遍話をするやうにと云ふことで多分年が經つたので御忘れになつたことだと存じます、何しろ訥辯でございますから、どうぞ其御積りで御聞きを願ひたい。

デ御承知の如く醫事衞生と申しまするものは、科學の上に成立ちました學問で、之を學問的に申上げますると實に乾燥無味のもので殆ど感興を惹くに足らぬ、又時に依ると餘り立入過て喧しい人がいつた樣なことを申上げてる樣なことに相成りまして御素人

●役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子
幹事（いろは順）　鳩山春子
同　羽田三緒子
同　岡田德子
同　高木かう子
同　山本多穗子
同　松平芳子
同　三浦敎子
評議員　石川貞子
同　岩下ゆか子
同　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　穗積歌子
同　土肥多越子
同　緒方悅子
同　岡山とし子
評議員　子爵夫人　山口貞子
同　松井正子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮本樂子
同　宮下吹子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
●色川圀士君
醫學博士　●伊東祐彦君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
赤十字社內科主任　●岩井禎造君
醫學士　●石原久君
醫學士　●磐瀬雄一君
醫學士　●石原喜久太郎君
男爵　濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　萩原彌四郎君
醫學博士　●芳賀榮次郎君
●長谷川泰君

醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　●大西秀治君
醫學博士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　●若杉喜三郎君
醫學士　●渡邊房吉君
男爵　●加藤弘之君
醫學博士　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　●川上雅計君
醫學博士　●樫田龜一郎君
醫學博士　●金杉英五郎君
醫學博士　●笠原光興君
醫學士　●唐澤光德君
醫學士　●河野衛君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齋君
醫學博士　●高木兼寬君
法學博士　●高木豐三君
醫學博士　●田代義德君
新潟　●田代亮助君
男爵　●高崎正風君
醫學士　●竹中成憲君
醫學士　●高田耕安君
新潟病院長　●高橋辰五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學士　●高橋貞碩君
藥學博士　●田原良純君
醫學博士　●田村光顯君
醫學博士　●久保猪之吉君
醫學士　●米山彦郎君
一等軍醫正　●星野篠光君
●宮本叔君

藥學博士　●長井長義君
醫學博士　●遠山椿吉君
醫學博士　●中濱東一郎君
醫學士　●黑田支通君
醫學士　●栗本直勝君
海軍中佐　●小笠原長生君
醫學士　●村松鋭三君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●栗木東明君
醫學博士　●山田鐵藏君
醫學士　●山田弘倫君
醫學士　●山根正次君
[illegible]　●山川春二君
衛生所技手　●丸山長四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
廣島　●小泉質君
醫學士　●古川榮君
東京　布施正顯君
男爵　●後藤新平君
大學名譽教授　●エ、ベルツ君
醫學士　●甲野棐君
●寺田勇吉君
醫學士　●寺田鴨作君
醫學士　●寺田織尾君
子爵　●秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寬君
ドクトル　●富士川游君
高崎醫會長　●土谷全次君
產科婦人科　●水原漸君
ドクトル　●久保田誠院君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　●淺田[illegible]君
醫學博士　[illegible]

醫學博士　●[illegible]
醫學博士　●[illegible]
醫學士　●佐[illegible]
醫學博士　●櫻井[illegible]
醫學博士　●桐淵[illegible]
醫學士　●北村[illegible]
醫學博士　●北島多一君
醫學博士　●北川乙治郎君
醫學博士　●木下正中君
醫學士　●北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學博士　●三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學博士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●日高昂君
ドクトル　●須田卓爾君
醫學士　●澄川德君
醫學博士　●木村德衛君
醫學博士　森林太郎君
醫學士　●笹川三男三君
醫學士　●波多野惇君
醫學博士　●吳秀三君
ミス　●リンテル
ミス　●ヒユース
ミセツス　●コーツ
ドクトル　●菊池循一君
醫學博士　●[illegible]本左武郎君

……ましたから……お書りませんでしたが、……お爲めになるであらうと……大變結構です。……

……の如き……とより成立つ其……



マルピギー氏體と[illegible]ふものは無組織の膜にして嚢をなし中央は凹で帽子の形狀をなす其れをボウマン氏の帽と云ふ其の凹で居

液體交換作用[illegible]まうなり此れが尿となるなり先づ腎のきものである而して此の實質の間を結間質なり此の間質に來る慢性の炎症なて間質の增息とな[illegible]べた機能が妨げられる次手に[illegible]に來る病氣は普通腎臟炎で慢性竝に急性とあ[illegible]其れと間質炎とは全く異なるものであります。

方は殆ど聞くに堪えぬやうなこともございます、と申して是を面白く申上げやうと云ふには私の如き不辯舌の者には迚も企て及ぶところではございませぬ無據く習ひ覺えましたもの丶一部を成るべく深く入りませぬやうに御話を致さうと思ひます。

それで此所に掲げてあります『萎縮腎に就て』と云ふ題はどうして持出したかと云ふと、丁度先月でございましたが、副會長さんから來月の會には御前出て話をしろと云ふことでありましたが、其時にちようど國家の元勳で在らせられる井上侯爵閣下が同病に罹つて居られて大層御惱みと云ふことでヒドク吾々共心痛致して居りました、然るに其後大層御快いと云ふことで喜んで居りますが、其病氣のことで思出しましたから……兎に角萎縮腎と云ふものは餘り今迄は素人は知りませぬでしたが、可なり多い病氣で一寸注意して置くと何かの爲めになるであらうと思ひまして、御分りになりますれば大變結構です。

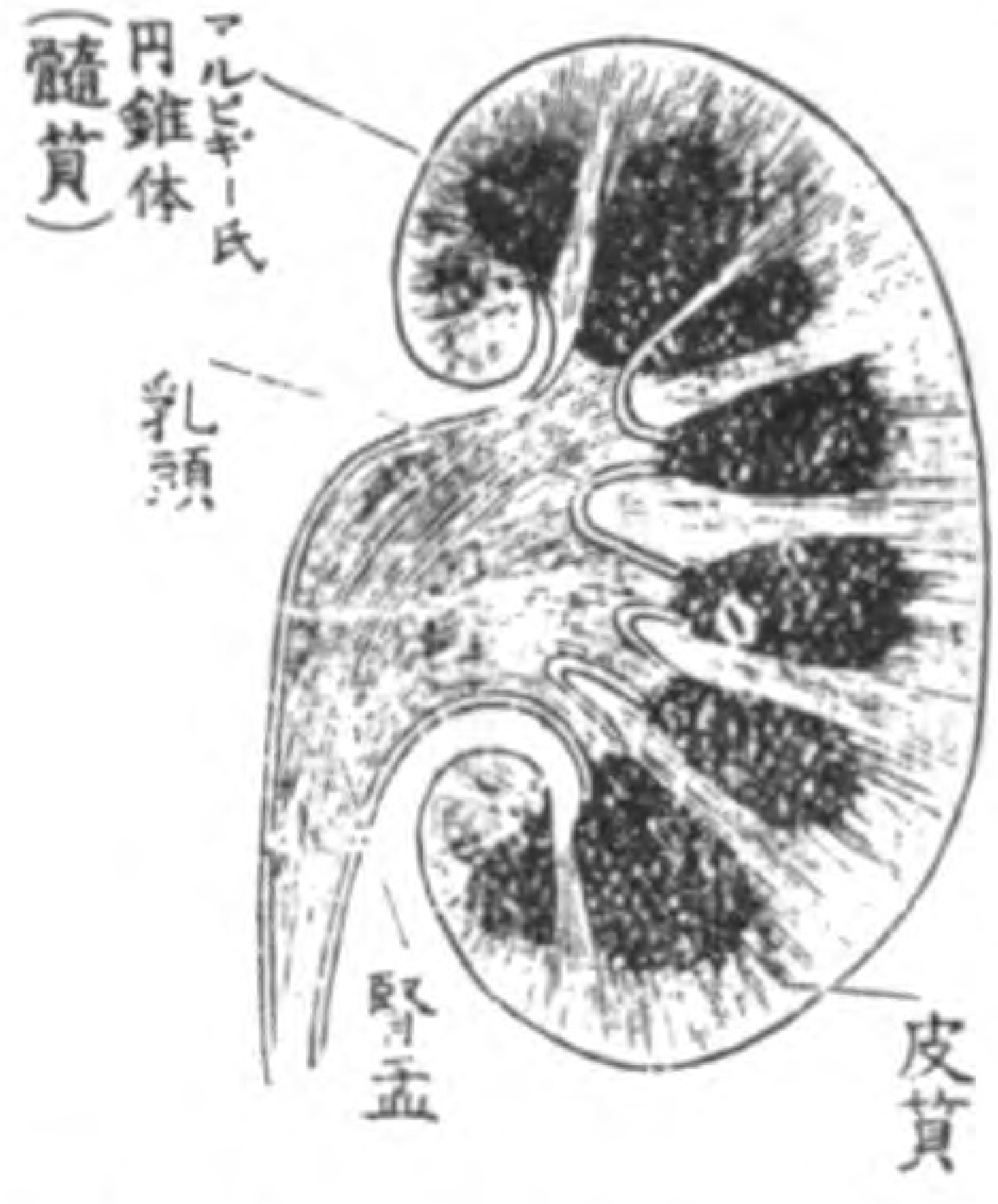
此病氣は腎臟に發する病氣でありまして、いろ〳〵申上げます前に甚だ面白くないことでありますが、病氣の起りが分りませぬと云ふと御話が皆滅茶々々になつて仕舞いますから解剖學的に少し御話致さうと思ひます、御退屈でもございませうが御聽きを願ひます。

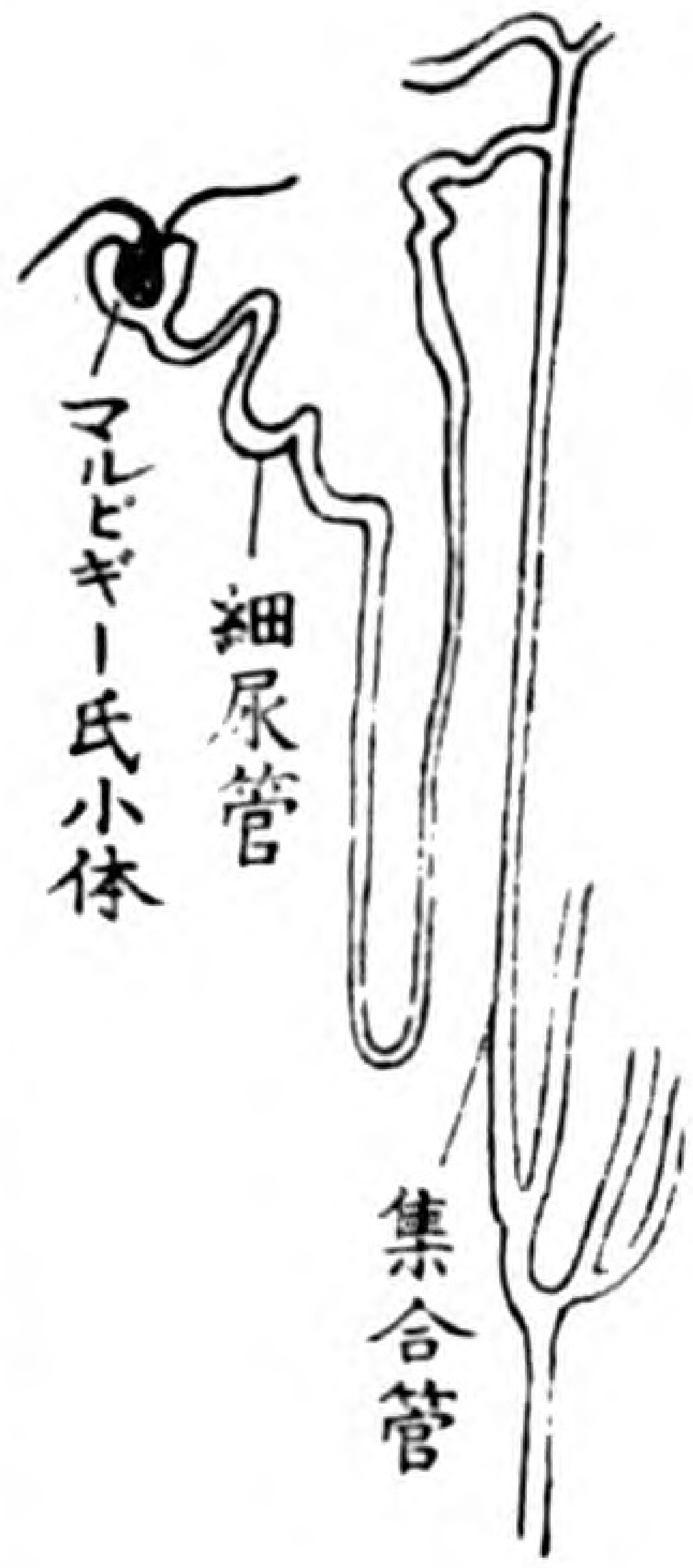
此病氣は極く慢性に發しまする、非常に永い時を費して起るものであります、永いのになりますと十年或はもうちつと永いのもあります。

此病氣の來りまするところは腎臟の間質結締織と云ふ部に來り其處に慢性炎症を發し漸々同間質を増殖を來すものなり故に一名を慢性間質性腎臟炎と云ふてあります。

其から此の間質と云ふのは何う云ふ物かと云ふと前に申述たる如く少しく解剖學的に申さねばならぬわけであります先づ腎は何處にあるかなれば第一、二腰椎に對して其の左右にありて形は扁平にして蠶豆の如きものなり其の構造を申しまするど皮質と髓質とより成立つ其の皮質とは腎の表面にあり其の内に

は血管と「マルピギー」氏の體を含む其の斷面は顆粒狀にして黄色を帶びた赤色を呈して居ります髓質とは細尿管の集束より成立つ故に其斷面は線狀をなして居り其の色は灰白色なり線狀を成したるものが數箇の圓錐狀の體をなす此れ「マルピギー」氏圓錐體と云ふ其の數は十四個あります此れは前に云ふた皮質のマルピギー氏體とは別のものでありますから一寸御斷りして置きます其れから其の皮質にあるマルピギー氏體と云ふものは無組織の膜にして嚢をなし中央は凹で帽子の形狀をなす其れをボウマン氏の帽と云ふ其の凹で居





る中へ毛細血管の壓入するありて又ボウマン氏帽の一端は細尿管に連接して居り其の細尿管が集合して集合管と名けるものを形成す又前に述べたる髓質の圓錐體の尖ている方を乳頭と云ふ此の乳頭の處へ只今の集合管が開口して居ります玆に圖を以て御示し申します。

此の機關の內で皮質は最も必要の働きを爲して居ります此のマルピギー氏小體の帽子形の內には毛細血管が壓入して非常な紆曲を爲して出て行きます此處の膜は甚だ薄きものなる故に理學的の原理によつて液體交換作用をなし廢物は細尿管の方へ取られてしまうなり此れが尿となるなり先づ腎の實質とは如此きものである而して此の實質の間を結合するものは間質なり此の間質に來る慢性の炎症なり此れによりて間質の增息となり腎臟が萎縮をなす而して前に述べた機能が妨げられる次手に申上まするが其の實質に來る病氣は普通腎臟炎で慢性並に急性とあります其れと間質炎とは全く異なるものであります。

此間質炎と云ふものはどう云ふものであるか、先づ病理解剖學的に申しまするを云ふと老年に來るものと壯年に來るものとに分ちます、壯年に來るのは少いのでありますが、老年に來るのは非常に多いのであります、皆樣方も御宅に御老人が在らつしやいませうし、吾々も直きに老年になりますから、此老年に於て萎縮腎を氣を付けなければなりませぬ。

老人に來るものは始めどう云ふ風になつて來るかと申しますと、先づ動脈の硬固を起します、此れ動脈硬變性萎縮腎であります、御醫者がどうして知るかと云ふと動脈壁が固くなつたので分る、それから老人の顏を見て脈管が紆曲つて出て居ります、是れ卽ち動脈壁が硬くなつた證であります、動脈壁が硬くなるとそれでは何故萎縮腎に陷るかと云ふと、是は一の推理でありますけれども、或一定量の血液を送り込みまするに此動脈壁は護謨管の如くに彈力を有して居つて血液を送つて吳れなければならない、然るに血管が硬くなつて彈力性を失ふと云ふと血液を送込むに非常に困難になる、從つて一定量の血液が無いから腎臟實質竝に間質共に其榮養を保持することが出來ませぬ、卽ち動脈硬變性萎縮腎に於ては腎動脈本幹及び細き枝に至る迄動脈壁が硬くなつた爲めに榮養に障碍を來す、榮養に障碍を來すとそれから其組織の總ては漸を追つて敗頽して來る、血管狹隘となり腎體は小さくなり表面諸所に瘢痕狀の收縮せる所を見出す樣になる、さうすると今申上げた細尿管とか集合管とかマルフェーニー氏の體とか云ふやうなものが、皆榮養障碍の爲めに抵抗力を失つて、所に依つて細尿管の諸部に大きな囊腫狀を成して居る、それで病理解剖學的に解剖して見ますと其腎臟は非常に固くて刀を以て切りますとザク〱音がします、普通の腎臟を切りますと音もしないでスーッと切れますのに是を切るとザク〱と丁度鞣革でも切るやうな音がします、さうして其斷面を見ますと方々に囊狀を成して空洞を作つて居る、此間質が增殖して實質を壓迫し、且つ榮養障碍の爲めにさう云

ふところに毒が出來る、此皮質が甚しきに至りましては薄いのになりますと一二「ミリメートル」位、どころに依ると非常に薄く紙の如くになつて居る殆ど腎臓の働きをすることが出來ないやうな狀態に陷つて居るところがあります、先程申しましたところの壯年期に罹る、是は始めに申した血管壁が硬くなつて來るのではなく直ちに腎臓の間質に來る、之を稱して原發性のものと申します、此原發性のは醫師が解剖して見ますと赤くて非常に硬いものでありますそれで一名を硬赤萎縮腎と名が付て居ります、此腎臓は脂肪に富んで居りまして、局部に脂肪の沈着がある、普通の腎臓炎に於て見ることの出來ない現象を見ることが出來ます。

此種萎縮腎は兩側同時に罹るかと申しますとさう云ふ譯ではなくして一方許りのこともありますし、又一個の中でも其全部でなく一局部が萎縮して居つて他は萎縮して居らないことがある、さう云ふ場合に於ては臨牀家即ち實地醫が之を誤診ることが澤山ある、それから第三には鉛毒であります、此頃は大變やかましくなりまして白粉なども鉛毒を含んで居る物は少くなつて居りますが十年若くは十二三年前には白粉には必ず何がしかの鉛分を含んで居りまして又慥に附けても工合が宜いさうです、それが爲めに隨分危險なものであるにも拘らず人が使つて居たのであります、それならば十年若くは十二三年以前には鉛毒のこわいことを知らなかつたのかと云ふとさうではなく、支那の書物を見ましても日本の古い漢法醫者の書物を見ましても鉛毒の恐るべきことは書いてある、然るに矢張其白粉は皮膚にのりが宜いと云ふので使つたものであります、併し今日では皆衛生思想の進歩の結果さう云ふ害物の入つて居りますものは賣品としても賣れぬものでありますから、今日では跡を斷つたやうであります、詰り俳優でございまするとか或は始終白粉に親しむ人がそれに罹ることが多かつた、其次には鉛職の者に多く罹病したのであります。

其處を此の老人性の間質炎にはどう云ふ年齢に罹るかと云ふと、四十歳から六十歳の間に最も多い、無論それより以上の者に無い譯ではございませぬが多く四十歳から六十歳の間に發して居ります、故に或人は之れに老者腎と云ふ別名を附けて居ります、獨逸のフォン、ブールと云ふ人は一歳の小兒に萎縮腎を見たと言つて居りますが、嘘ぢやなからうけれども隨分變な話で、珍らしいことであります、あつたかも知れませぬ、此萎縮腎は男子と女子と何方に多いかと申しまするこ今迄は男子に多く女子に少うございました、何故であるかと云ふと女子の方が生活の狀態が規則正しい、且つ其害因に觸れるところの機會が少い爲めに女子の方がどうしても萎縮腎に罹ることが少ない勿論無いぢやない無論ありますけれども比較的少い、是れではどう云ふ生活狀態の者が此萎縮腎に罹ることが多いかと申しまするこ、只今申上げました通り生活狀態の不規則なること、並に普通惡いと申すことは皆此の原因になり得るのでありますが、先づ一番惡いのは濕氣、風雨に當るなどが最も原因となります、ですから貧民に多い、其外貧民でなくてもえらい人でもある、さう云ふのはどう云ふ譯であるかと云ふと、昔己れの身體を顧みることが出來ずして或事の爲めに奔走すると云ふことの爲めに屢々風邪をひくと云ふことから出て來るそれから漁夫、船乘、軍人――軍人には殊に多いやうであります、是は日本の例は未だ詳しくないやうですが、西洋ではさう云ふことを言つて居ります。

（未完）

叢談

嬰兒の啼泣

醫學士　F。W。生

『泣く』と云ふのは嬰兒の言葉で、暑さ、寒さ、痒さ

痛さも凡て泣くと云ふことで發表されるものであります。サレバ今迄スヤ〳〵と熟睡して居つた嬰兒が急に眼をさまして體をもがき、口をうごかし、蕾のやうな口唇から玉の樣な聲を出して泣き出したからと云つて、一概に『飲みたいから』ばかりとは云ひがたい。或は鳥の林にさへづり、風の空に鳴る樣に、只々嬰兒の自然として泣き、サシテ飢へも苦しみも無いことがあります。故に何うして泣くのかを極めないで、『泣けば飲ませ、泣けば飲ませ』すると云ふのは、徒に嬰兒の健康を害ふのみであります。

勿論、『泣く兒に乳』の諺の通り、如何なる理由で泣くにせよ、乳をふくませた當座は必ず一應泣き止むもので、『母に添ひ寢の夢を見』たと云ふだけでも、『泣き止む』と云ふことが古き歌にも歌はれて居ります。然かしながら腹がすいて泣くので無いのに、乳をのまして泣き止ませたからと云つて、ソレはホンノ一時的で、直ぐに再び強く泣き出すものであります。何故かと云ふに、胃の中にある乳の未だ全く消化ないのに又も乳を與ふれば、前後の乳は混交して胃の作用を害し、新に胃液をつくり出し、或は腹痛を來し、或は下腹を膨滿らせるからであります。

故に嬰兒の泣いて困ると云ふ時には、出來るだけ其泣く理由をさがし出し、先づ之れを取り除かなければなりません。襁褓が汚れて不快であるために泣くものと思はれたらば、直ぐに清潔な乾燥したものと取り代へる、衣服の著せ方が惡くて窮屈であるか、或は帶の緊め方が強よすぎると思はれる時には、著せ方をよくし、帶をゆるめて自在に運動の出來るやうにする。久しく片寢ばかりをさして置けば、ジビレたり疲勞たりして嬰兒は突然と泣き出すものであるから、時刻をはかつて折々反對側に寢返りをさせる。切りに強く泣き叫けび、兩脚をちゞめて下腹へ押しつける樣な時には、大方腹の痛いものと想象し靜かに仰向けに寢かせて少しく腹をあたゝめてやり或は暖かな手で徐かに下腹を擦つてやる。何うしても腹が飢いた爲めに泣くものと外思はれず、且つ乳

を飲ませる時刻にもなつて居れば、之を飲ましても差し支へはありません。

これに就ては一日何回、何時間隔きに乳を飲ましてよいものかと云ふ事を豫め知つて居なければなりませんが、夫れは勿論嬰兒の乳を要求する度合ひによつて異るもので、總じて生後日數の經たぬ嬰兒ほど其要求の度數が頻繁なものであります、何となれば生後日數の經たぬもの程、其消化作用の行はれることが速いからであります。殊に甲の嬰兒と乙の嬰兒とは其生れながらの體質に甚しい強弱の差異があるから、何れの嬰兒にも適すると云ふ哺乳時間を確言するのは六ケ敷いが、諸大家の觀察と經驗とによるに、初生兒が一旦飲んだ乳を悉皆消化して、再び『飢へ』と云ふ感覺をいだく迄には、二時間乃至二時間半を要するとの事であります。されば初生兒の哺乳時間は大凡そ二時間乃至二時間半隔きと心得て差し支へは無く、生後日數を經るに從ひ、三時間乃至それ以上に延長すべきものであります。

何うしても泣く理由のわからない時には、醫者の診察を乞はねばならぬが、又泣く儘に棄てゝ置けば自づと泣き止んで、遂にスヤ〳〵と寢入る事があります。蓋し嬰兒の泣くと云ふのは、眠いからである事が少くないからであります。『泣くだけ泣かせろ』と云ふのは餘り殘酷のやうで、親の身に取つて之れより不憫の事はないが、さりとて抱いて搖つて、室内を歩るき廻つて、守歌を歌ひ立てるのも、時に取つて嬰兒を害する事になる。第一眠いものを抱きかゝへて其耳邊で歌をうたひ歩いては却て精神を興奮させる、體を搖つて其脊部を叩いては嬰兒の腦を震盪させる恐れがあります。

『泣くだけ泣かせろ』と云ふ哲理は、兒を育てる婦人方の何れも次然に學ぶ所で、總領を哺育てる時には少しばかり泣かれても滅入る許りに心配し、『蟲』ではないか、『風邪』ではないか、腹の痛いのでは無いかなどゝ、とつ措いつの迷ひに沈むものであるが、二男三男四男と哺育てゝ行くうちには、漸次多くの

經驗を積み、終には『眠いから泣くのだよ』と空吹く風とすまし切るやうになります。故に多くの子女達を育て上げた姑の眼から見ると、始めて兒と云ふものを生み、泣かれて困る嫁の擧動が一々齒がゆくてならぬのであります。

『總領の甚六』と云ふ事がありますが、概して總領は我儘で、怒り易く、友達と『能ひ仲』が出來ず、凡てが利己的で、教育も至難で、他の弟達妹達よりは遙かに馬鹿なものであります。これは未だ子を育てるに經驗の無い若い母が、何れや此れやと全力を盡して其の泣くのを止めやうとするからでもあります。

思ふ存分泣かせるのは却つて嬰兒の健康を助ける事もあります。腹の膨滿つて痛い時に聲を限りに泣かせる時は、其痛みも輕くなる。此外尚は泣く時には呼吸も深くなり、消化もよくなり、血液循環も活潑になり、從て嬰兒が强壯活潑に發育生長することになります。故に嬰兒の泣くと云ふのは自然が之を泣かせるものと見做し、或度までは其儘に放任して差し支へない。然しながら病氣のために泣くものと思はれたら、時をうつさず相當の學識經驗を備へた醫者から診察て貰はねばならぬのは申す迄もありません。

家庭療法

醫學士　A。B。生

家庭療法と云ふ題の下に、日常家庭に起り來る負傷其他に對する救急法や、簡單な疾病の治療等に就て述べませう。家庭療法、言ひ換ふれば手療治であります、世に素人の手療治程危險なものは無い、且又今日程醫術が進歩して來て居る時に手療治を說くと云ふのは、實に迂遠な愚かな話の樣にも思はれる、併し實は全く反對で、手療治は危險なものであるから尚更手療治に就て述べねばならぬので有ります、何故かと云ふに、家庭の療治は危險だからと云つて

全く家庭の療治をせずに濟むであらうか、手を切つた、犬に咬まれた、水に溺れた、手療治は危險だと云つて血がどく／＼流れるのに其儘にして置けるか水から出した冷たく成つた人を其儘に棄て置くか、何どかせねばなりますまい、うろ／＼して居る間に命が絶えて仕舞つたら夫迄である。よく新聞等に見られる不意の出來事で、醫者のかけつけた時には最早遲かつたと云ふのが澤山ある、之れ實際單に遲かつたのである、駄目で有つたのぢやない、早く來れば命を取り止める事が出來たのである、此樣な時に一寸救急法を知つた人が有つたなら、大事な人の命を兎にも角にも取りとめて、醫者の手に渡す事が出來たのである、救急法を知らぬ人は手を空くして坊さんを待たねばならぬ時に、救急法の心得ある家庭では醫者を待つ事が出來るので有る。家の内に常に醫者を招じて居る家でない限りは、如何なる都會の中央にも矢張『醫者を待つ間』と云ふ時間はある、此時間のある以上は家庭の療法と云ふ事は如何しても等閑にする事は出來ぬのであります。

又此樣な救急の時でなくとも、家内の者が極く輕い疾病に罹つた場合、例へば小さな腫物が出來たとか一寸風を引いたとか、手足があれたとか、腹が痛んだとか云ふ樣な時に、直ちに醫者に行くならばそれに越した事は無いけれども、餘り苦痛も無い樣な時には、つい多忙に妨げられて一日一日と延引し、何か苦痛を覺えた時に始めて、驚いて醫者に驅けつけると云ふ樣な事は往々あるのであります。此樣な時に一寸した手當法を知つて居れば、身體に何か異常の有るに氣の附いた時に直ちに其手當をして置けばそれだけで治つて仕舞ふか、さなくば醫者に行くにしても、少しでも手當がしてあるから、餘り不都合な手後れとなる樣な事は有りますまい。此樣な簡單な疾病に對する手療治は已に素人が皆行つて居る處では有りますが、昔から云ひ傳へ聞き傳への怪しい方法も隨分あるのでありますから、一應簡單に述べて置くのも無益ではあるまいと思はれます。

第一　出血

家庭の出來事で最も多く醫治を要するもの丶一つで又最も救急の手當を要するもので有ります、之れは時によつては人命に關はる樣な事も随分あるので有ります。

○如何にして出血は起るか

出血は如何にして起るかと云ふ事は明な事で、皮膚とか筋肉とか、其他各種の組織の創傷によつて來るので有る、併し何故に創傷によつて出血するかと云ふ事は、漠然と只、皮膚は血液を包んだ大きな嚢の樣に思ひ、此嚢を破るから出血するのだと心得て居る人が無いでもないが、之れは大なる誤解で有りまして、血液は決して此樣に大な嚢の中にだぶ〳〵と漂ふて居るものでは無い、身體の各部の血液は皆大小各種の管の中に入つて其中を常に流れて居るので有ります、此管を血管と云ふて、ゴム管の樣な彈力の有る管で、太いのは小指程のから細いのは肉眼では見えぬ程の迄有ります。だからつまり出血と云ふのは此管を破られるから血が出て來るので、水道の管が破れて水が噴出するのと少しも差違はないのであります。一寸指を切つて出る樣な少さな出血も皆目に見えぬ細い血管が切り破られるから起るので有ります。

斯の如く出血は皆血管からでは有るけれど（心臓の中には血管と同じく血液が充ちて居る之れは血液循環の本元であるが此事は今は申しませぬ）其血管は皆一樣のものでは無く、随つて其中の血液にも差別が有りますので、自然、出血の状態も違つて居る。そこで血管を別つと、動脈管、靜脈管、毛細管の三種類と成る。動脈管と云ふのは心臓から出て來る方の管でありまして、管の壁が厚く丈夫で、中に入つて居る血液は紅く新鮮で、靜脈管と云ふのは管の壁が薄く弱くて、中の血液は暗紅色に成つて居る、毛細管と云ふのは遙に小さく肉眼には見えぬ程の細管を云ふので有ります。此各種の血管によつて出血の状は各々別で有ります。此各種の血管の體內

を走つて居る狀は甚だ複雜で有りますから、詳しくは說明する事は出來ませぬが、動脈の走つて居る處には靜脈も共に走つて居り、毛細管は到る處に存するので有ります。而して動脈の內大きなもので體表面に近いものは、手で觸れて見れば脈搏を知る事が出來ますから、其處では動脈の所在は明で有ります。次に

○出血の種類

は如何かと云ふに、前述の如く動脈、靜脈、毛細管の三種類の出血に區別する。

動脈出血は其色が鮮紅色で、脈搏と一致して、どく／＼と間歇性に強く逆り出づるもので有つて、靜脈出血とは其色が暗紅色で靜かに流れて出る、之れ靜脈は其壁が薄く且つ心臟の方にもどる血管であるから勢よくは出て來ないが、動脈は管の壁も厚く、心臟から勢よく押出される方の血管であるから、出血の時にも脈を打つと同じ樣に噴き出すので有ります。毛細管出血と云ふのは管が肉眼に見えぬ程細いから、何處からと云ふ事も無く出て來て、創面一般に滲出するので有ります。

○如何なる出血が危險を來すか

出血と云つても、何れも皆危險と云ふ譯ではない、一寸手を切つて流れた出血位は何の事も無く止まつて仕舞ふものである。つまり毛細管出血と小靜脈出血とは、別段止血法を行なはずとも、自然止血が行なはれるから、危險は無いのであります。最も危險なのは動脈殊に太き動脈の出血で有つて、時には立どころに生命を失なう事とも成る、又大きな靜脈管からの出血も隨分危險の事が多いので有ります。扨て出血が甚だしくて自然止血が行はれず、多くの血液を失ふた時には人體には如何なる徵候が起つて來るかと云ふに、先づ皮膚殊に顏面や手足の皮膚が蒼白に成り、冷たく成り、身體が甚しく疲勞し、虛弱を感じ、眼華閃發や、耳鳴や、吐氣や、嘔吐や、苦悶や、眩暈やが起つて來て氣が遠くなり、尚夫れが度を過ぐれば烈しき呼吸困難を來し、腺の

分泌が止まり、知覺が無くなり、瞳孔が開大し、尿や糞便に失禁する樣に成り、強き痙攣が起つて終には不歸の人と成つて仕舞ふので有ります。さらば此樣な結果に成るにはどの位の血液を失つたらなるのかと云ふに、これは人々によつて一定して居ない、小兒とか老人とか弱い人等では左程多くなくても命に關はる事も有るであらうし、壯年の丈夫な者では比較的長く持ちこたえる事も出來る、殊に婦人は男子よりは抵抗力が強いので有ります。又出血の狀態によつても大に差が有る、急に非常の勢で澤山の血が迸出するのと、少し宛徐々に流れるのとを比較すれば、同量の血が出ても前者が危險なるは申す迄もありません。一體血液と云ふものは人間の體重の十三分の一位あるのでありますが、小兒では已に二百五十立方仙迷の血を失へば死すると云はれ、大人でも急に出血した時には千五百から千八百立方仙迷も失へば命に關するとの事で有ります、如何に徐々に出血し、如何に健全な人でも全血液量の二分の一以上の失血には耐え得ぬ事と成つて居ます。

○毛細管及び小靜脈管の止血は如何にして行はるゝか

一體止血と云ふ事を別つて二つとする事が出來る、一は人が何とも處置せずに置いても自然と血が止まるので有つて、之れを自然止血と云ひ、他は自然に任しては決して止まらず或は止まるにしても多くの血を失ふが爲に人工を加へて止血する方法で有つて之れを人工止血法と名くるので有ります。扨て、毛細管や小靜脈の止血は卽ち此自然止血で有つて、別に止血法を人工的に行なうを要しない、此樣な創の時には只一寸、惡い黴菌等の入らぬ樣に蔽ふて置けば足れるで有ります。假令ひ出血が隨分多い樣な事が有つても、創所を高く擧げて置くとか、氷の片を置てやるとか、一寸布で括つて置く位の事で、何事も無く止血するので有ります。さらば此自然止血と云ふ事は如何にして起るものかと云ふに、之れには先づ血液とは一體どの樣なものかと云ふ事を述べ

ねばならぬ。血液と云ふのは肉眼では只の紅色の一様の液體に外ならぬので有りますが、顯微鏡下に照して見ると決して液體ばかりでは無い、無數の小さな圓板狀の球が見える、之れを血球と云つて、血球には赤血球白血球の二種類が有るので有りますが、白血球と云ふのは極く小數で有るから主として赤血球と云ふてよい、此赤血球は薄赤を帶びた黄色で有るから之が無數に集れば紅に見えるので有ります。此様な血球が液體の中に無數に混じつて居るが、目に見えぬ程小さだから肉眼には一様の液體の様に思はれる。此血球の混つて居る液體を血漿と云ふので有ります。成分は此位として此血液が如何なる性質を持つて居るかと云ふに、血液は血管から流出して人の體外に出れば直ちに凝固せんとする性質が有る此凝固は其起る理由に就いては未だ十分明で無いが、其凝固の方法は明であります、卽ち血液が體外に出ると、血液の血漿の中から一種の蛋白質を出して、夫れが纖維素と成つて塊つて網の目の様なものが出來て、其網の目の間に血球が無數に群がり附くので有ります、勿論此様な事は肉眼には見えないので、此様な作用の起つたのを肉眼で見ると、血液が始めはどろ〳〵と濃く成り、後には全く凝固して仕舞ふので有ります。斯の如く凝まつて仕舞ふから、今負傷して、血管を破られて出血して居た處へ此凝固物の爲に血の出口が全く閉されて仕舞ふから自然と血は止まるので有ります。血を多く失なはさない爲めに血液に凝固の性質を與へたのは實に造化の妙と云はねば成りません。自然止血の原因は主として凝固にあるので有りますが、まだ其他にも二三の原因として數ふべきものが無いでは有りません。其一つは血管の管壁には、內被細胞層や結締組織層以外に、多少の筋肉の層が有りますから、血管が損傷を受けると、其筋肉が甚しく收縮するので、其爲に損傷部が多少閉されるから止血し易く成るので有ります。又一つは管壁の內側にある內被細胞層の爲めでありまして、損傷を受けた處で、此內被細

胞が管内で膨脹して、管内を狹くする爲めに止血し易く成るのであります。其他小さな原因は澤山有りませうけれど一々は申しません。扨て此樣な方法で種々に自然止血が行はれるのに何故に動脈や大きな靜脈には人工止血法を行はねばならぬのかと云ふに、成程動脈出血の時にも出て來た血液は凝固仕やうとして隨分勉めるには相違ない、併し乍ら如何せん動脈から迸り出づる血液は其勢餘りに猛にして、靜に凝固を作る樣な餘裕を與へないので有ります。

手と指と爪と（上）

東京醫科大學　K。H。生

日本人は世界のうちで一番指さきの器用な國民であると申す事は、我國に久しく居られる西洋の方や又西洋から御歸朝になつた方々から毎々承はる事であります、又實際其通りである樣に考へられますのは小刀で鉛筆を削るとか、お箸を使つて御飯をたべるとか或は靴の代りに下駄を穿くとか云樣な極めて卑近な例を見ても分ります、西洋からお出になつた方が宴會や何かで、覺束ない手つきでお箸を使つて見たり危い足元をしながら下駄を引摺て興がられるのは屢々見受ます事で、見て居ても誠にもどかしく思ふ位であります、神樣も及ばぬ位に緻密な頭腦と技巧とを持て居る西洋の方が只指頭の業にかけて許り恁ふも遲鈍のは誠に不思儀な樣ではありますが西洋人とても元來指さきの働きの鈍い樣に生れ附た譯ではありませぬ、是は小さいからの習慣の然らしめた爲であります、畢竟西洋の方では飯を召上がる時には肉叉を使ひ、足には靴を穿くと云樣に手でも足でも指の力を何時でも一緒にして働かせますが、我國では箸を使ふにも下駄を穿くにも指は一本一本夫夫違つた働きを致しますので從つて指さきの働きが自由になり、夫が習慣となつて遂には手業が何でも器用にできる樣に成つたものであります。

外國の方が其精巧なのに驚くと言はれる刺繍や密畫の日本畫も是又我國民の指さきの器用な一證であります、單に緻密など云點許りから申せばまだ〳〵精巧にできる器械もありませうが指さきでゞきた工藝品はたゞに緻密なと申す外に猶一種の言ふに言はれぬ趣味を供ふので、是が我國の工藝品が歐米諸國で大に持囃される原因であります、ですから我國が世界の尊い美術國として憧憬せられる名與の少くとも一半は、此器用な指さきの働きによつてかち得たものと申しても決して過言ではありますまい、技藝上の事許りではなく其他の學問上や何かの事にも此指さきの器用なと申す事がどの位幸して居るか分りませぬ、例へて申せば外科や眼科の手術に致した所で、惡く成つてる所を切取つたり創口を縫合せたりする手際の巧妙な事は何程西洋の大家でも隨分我國の大家に及ばぬ様な事もある相であります。

恁云風に指さきの一番器用な日本人は、夫れではどれ程手や指を大切にし、衛生上美容上の注意を致すかと考えて見ますと、是は又案外で其方に懸けては却て手業に鈍い西洋の方の考への方が遙に進んで居るのであります、西洋では手や指ばかりに使ふ特別なくりーむやおしろいができて居り、爪尖のお化粧なども隨分細かい所まで注意が行屆て居り、其外指環に致せ手袋に致せ總て手のさきに附る装飾品の非常に進歩致して居るのを見ても、西洋の方はどの位手や指に重きを置くかと云事が分ります、之に反して我國では手の衛生やお化粧にはとんと無頓著な様で精々の處で使ひ餘した薄い白粉を序に塗るか或は皮膚が荒れた時に漸く絲瓜水かべるつ水かを塗る位の事であります、手袋に致した所で以前は防寒の爲に許り用ひて居たので、夏でもはめる様に成つたのはつい近頃の事で是も西洋の風から入つて來たものと思はれます。

西洋の方が此様に手を大切に注意せられるのは一つは其國々の風俗による事であります、御承知の通り向ふでは御婦人が盛裝をする折には手を腕から悉皆

畢ちさねばならず一寸挨拶をするにしても握手をするので、從つて手が目立つ機會が多く、夫で始終手を美しくする樣に注意するのであります、一番形の良い手と申しますと、全體に於て餘り大きくなく巾も狹く軟かに圓味があつて肉附きよく、細かい指の節々には優しい凹みがある程のものが最もよろしい指も素直に美しく細つそりして居て其長さは無名指よりも人指々の方が長いのを品格が良いとしてあります、男子では藥指の方が長いのが多い樣でありますが御婦人の美しい手と云のは大抵人さし指の方が長い相であります、爪は美しい曲線を描て巾よりも永さの方が大きく、色も淡紅色で櫻貝を並べた位のが最もよろしいとしてあります。

人體のうちで割合に綺麗相に見えて其實汚れ易いのは手と手の指とであります、私共が恁うして一日働いて居ります間に手程色々な物に觸れる處はありませぬ、其うちには又隨分汚い物に觸わる事もあり、而して夫を知らずに其儘の手で眼口や鼻をいじくり或は食物を撮んでたべると云樣な事があり考えて見ると誠に危險なものであります、喧ましく言つて見ればどあトの握りや碑の引手なども餘り清潔な物とは言はれませぬ、夫よりも猶一層危險なのは電車の吊革の樣なものであります、前にどんな病氣の人が握まつて居たかも知れず、そうでなくても彼の樣に多勢の人が握つて、垢と膏とで汚れて居る位ですから如何な汚い病毒が潛んで居ないとも限りませぬ、是は如何しても紙片か何かで捲て其上を握まる位の注意が必要であります、況して其手を洗ひもせずに其儘の手で鼻をいじくるとか菓子を撮んで食べるとか云樣な事は嚴しくお愼しみなさらなければならぬと存じます。其外社やお寺へ參詣する毎に不愉快に思ふのは、手洗水の上に懸けてある奉納手拭と、時時田舍のお寺などで見受けるお賓頭盧の木像であります、殊に木像の方はどうせ病氣のある人も擦するのですから之を擦すつて其手で我身を撫でるのは丁度病を態と我身に傳染す樣なものであります、然か

も恁云事は小供などの好んで仕たがる事でありますから一層その注意が大切であります。

手や手の指さきが中立となつて病氣を傳染する事は隨分多く見受ける事實であります、眼では膿漏性結膜炎卽ち俗に風眼と云ふもの或はとらほーむの例を考へてもお分りに成ると存じます、風眼と申すものは昔から隨分怖れられたもので、急に眼が激しく痛み出して全く腫れ塞がり、手當が後れると遂には全く目が潰れて仕舞と云程のものでありますが、此の原因となるものは淋疾の膿が目に入つて起るのであります、此樣な病毒のある部分に觸つた手で亦不知不識目を擦つたり何か致して其機みに毒を移す樣になるのです、其證據には、初めに此病氣に罹るのは大抵右の目であります、其譯はだれでも左の手よりも右の手の方が使ひ易く從つて病毒に觸るのも右の手、又右の手で觸る目も右の方でありますからです、是を見ても指から病毒が傳ると云事は充分確める事ができます、とらほーむも之と同じ樣に指さきから傳染る場合が多いのであります、以上はほんの目許に就ての一二の例に過ぎませぬが猶此外にも斯樣な例は澤山にあります、ですから如何な病氣に係らず少しでも怪しいと思つた所に手が觸つた時には充分注意してすぐに二千倍の昇汞液で消毒するか、少くとも石鹼などで充分手を洗ふ位の事はなさらなければなりませぬ。

前のは特別な病毒に觸れた場合のお話でありましたが、今度は夫ではなく決して不潔な物には近寄らなかつた場合にでも、私共の指さきは私共が考へて居る程清潔な物ではないのであります、或西洋の學者の試驗によりますと、石鹼とぶらしとで充分研き上げてお儲に消毒液で充分消毒した筈の手でさへ指さきの特に渦て居る肌理の間には、創口から入り込めば夫を化膿せる樣な恐しい黴菌が澤山に附著て居たと云樣な事を報告して居られます、夫ですから醫學の方でも、外科や産婦人科などでは特に手の消毒が喧ましく、手を洗ふ事は手術の前の大切な一つの技

術としてあります、手術室では先づ手をよくお湯で洗つて爪を剪り、爪さきを綺麗に掃除し、夫から手を腕迄まくり上げて一面に石鹼を塗り、其上を嚴しく十五分間硬いぶらしで皮膚の赤くなる程に強く擦るのであります、最後に殺菌水で充分石鹼を洗落した手を倘二千倍の昇汞水の中に暫らく涵けて消毒するのであります、恁うして一度手を消毒した上は手術に掛る迄は決して何物にも觸る事ができぬのですですから大抵の手術室では、どあーを開けるにも、手を洗ふ水を出すにも、其他又がーせーを出すにしても少しも手を觸れる事がいらず、足で踏めば獨りで出る樣な仕掛に成つて居るのであります、手術に使つた手や器械の消毒が充分行屆てさへ居れば其樣な事はありませぬが、若し其所に少しでも手落ちがありますと附著て居た黴菌が、患者の手術した創口から入り込んで創口が膿む樣になり同時に高い熱が出て最も危險な狀態となることがあります、ですから手や器械の消毒を嚴重にすると云事は醫者が患者に對して嚴しく守らねばならぬ大切な義務としてあります、ですから餘り清潔に成つて居ない樣な手では創口を觸る樣な事は成るべく愼まねばなりませぬ、病毒に觸つた時は勿論、觸らぬ時でも醫者の方では此樣に深い注意を致して居る位でありますから、手は何時でもできるだけ綺麗に致して、たとへ眼に觸らうが鼻に觸らうが少しも心配のない位に充分清潔にして置度ものと考へます。

日本人は世界で一番入浴好きの國民であるから手でも足でも何時も清潔になつて居ると云はれる方があります、成程私共程入浴好きな國民は外にはありませぬが、併し其割に手や指の事に就ては餘り注意を致しませぬかと存じます、之に反して西洋の方は日本の方程よく浴湯には入りませぬが其代り手の清潔に注意する事は非常なもので朝夕幾度となく丁寧に手入れを致します、又印度の一州でまいぞーると申す國は、土地も邊鄙で餘り開けた所ではありませぬが、其所では總て汚い物に觸るには左の手を使

ひ、清潔な物に觸るには右の手を使ふ習慣で、畢竟兩手を使ひ分るので誠に面白い風俗であります、ですからいやしくも文明國のれでーを以て任せらる方は平素よく注意をして手を清潔にし美しくせらるゝ事も大切なる身だしなみの一であると存じます、然うお話致して見ますと何でも物に觸る度毎に一々其手を洗はねばならぬ樣で、甚だ窮屈な樣に聞えるかも知れませぬが中には又神經衰弱症やひすてりー、夫より一層進で水溺症と申すのになりますさ、物に觸る度毎に指さきが氣に成つて堪らずのべつに手を洗はなければ氣が濟まぬと云樣な病氣もあります、併し何程手を清潔にするのがよいと申しても其樣に無暗に洗ふ必要はありませぬ、世の中のあらゆる物に病毒が附て居ると云譯ではありませぬ、其上人間の身體も或程度迄は外來の危險に抵抗する事のできる樣に拵へられて居るのでありますから其樣に甚く氣にするには及びませぬ、畢竟只平素から手や指を清潔にする事に注意し、餘り清潔でないと思はれる物に觸つた時には直ちに其手を洗ふ樣にすればよろしいのであります。

（未完）

子孫に及ぼす飲酒及喫烟の害

R、H、生

別に病氣に罹つたのでも無いのに生れながらにして普通の小兒としての活力もなく、神經力も弱く、人生を餘りに悦ばない性癖があり、概して肉體薄弱で從つて其智力及び道德力も普通の小兒よりズツト劣つて居る小兒が世に尠少くありません。其然る原因は種々あり、其親たる者の不道德なる性癖にも因りませうが、親たる男女の喫烟、飲酒の惡癖も其大なる原因となります。

ドクトルクローザース氏はヒステリーとか、痙攣とか、何でも無い事に怒る性癖とか、感激し易い性質とか、憂鬱性とか、輕々しく信ずる性質とか、疑い

深い性質とか、非常な感情的の性質とか、餘り理屈ツポイ性質とかは皆神經衰弱の徴候であると云ひました。而して神經及び腦力の減殺衰弱は酒精及び藥劑に醉ふ事に原因するものが多いのであります。酒精が神經衰弱を惹起す事は今日一般の學者の一致する說であります。一體衰弱したる神經は刺戟劑を切りに欲する傾きがありますが、此の時に當り弱くなつて居る意思は直ぐに其要求に從つて刺戟劑を與ふるので、其結果不幸にも醉ふやうになります。若し母の生活狀態及び其道德的身持の惡しかりし爲め其體を弱くし引いて其子女の神經を弱くしたものとすれば、婦人たるものは深く愼み、自らを其不幸なる狀態より救ひ出さねばなりません。注意さへ怠りなくば其不幸より自らを救ふ事は少しも困難なことではありませぬ。然るに少女にして自ら省みず自ら愼まず、其不幸より救はるゝことを欲はないならば其婦人の晩年が精神上にまた肉體上に甚だ不幸であるばかりでなく、可愛ゆき子孫にまでも其不幸を繼承せしめねばなりません。愼みでも尚愼み、革めても尚革むべきことではありませんか。

愚鈍、酩酊は不幸にも開けたる國民の間に却て數多いやうであります。こは誠に吾人をして其何故たるかを問はざるを得ざらしむる程に驚くべき事實であります。

一生涯酩酊の事に付て研究せしクローザース氏は西曆千八百七十年より千八百九十年までに酩酊者が某市の住民の一割以上の比例を以て增加した事實を記して居ます、そして其多數の住民は皆其父か、母か或は兩親の酩酊から遺傳したものであると云つて居ります。之れ實に多數の婦人が好んで酒精を飲用せし悲むべき酬ゐであります。婦人たるもの深く愼まねばなりませぬ、婦人にして深く自ら之を制し之を用ひないやうにするならば自然に男子の好酒性をも減殺し、遂には之を禁せさせることが出來ます。社會の花役者たる婦人にして酒精を甚だしく嫌惡するやうになりますならば從つて青年男子の好酒性をも

減殺することが出來ます。日本では幸にも教育ある婦人で酒に醉ふ樣な婦人は餘り多くは認めませんが、內々は盛に飮んでる婦人もある樣子です。無教育な婦人等では男子も及ばない位の大飮酒家もあります。酒を飮むことを道德上より餘り八釜敷言はないものですから、自分ではよしや飮まなくとも友人や夫の飮酒することには丸で無頓著である、間には無頓著どころでなく、酒も飮まないでは男らしくないなど言つて、男子の飮酒を獎勵する風さへ往々見受けらるゝ樣であります。酒精が血液に混合すれば如何ばかり身體を損傷ふものであるかを知つて居る婦人が至つて少ない。どうしても健康の方面と道德の方面とより、飮酒の害毒の甚だしきを恐れるやうな心が起らねばなりません。さりとて私は敢て酒精は一滴たりとも飮用すべからずとは申しません、日本の酒の樣な弱い酒を適度に用ゆる事は害にはなりません、然し、適度と云ふ事が中々に六ケ敷問題で、大抵は過度が適度位に思はれるから危險であります。飮酒は第一に社會に害を及ぼすものである、之は犯罪の統計表を見れば寒心する程に其害の甚だしきを認むることが出來ます。第二は自らの精神を甚だしく害します、之は諸姉が實見せられて疾く御存じの事でありませう。第三は肉體に其害を及ぼし引きて子孫百代に至るまで其精神及び肉體を傷ふものであります。されば國民の母たらんものは自ら酒精の飮用を愼むは勿論、其夫、其友をして之を愼むやう陰に陽につとめねばなりません。

婦人にして若し飮酒家なる男とは結婚もせず、交際もしないと云ふ位に自らを高め、自ら愼むやうになりますならば、容易に男子の酒癖をも矯正する事が出來、多くの過失より國民を救ふことが出來ます、また花柳の街衢より男子の足を遠ざくることも出來ます。

夫婦共に酒を好む爲めに爭ひの絕えない家庭もあるし。妻は飮酒せずとも夫が飮酒するのを拒まない爲

めに最愛の夫をして大飲酒家たらしめ、家庭内の風波は常に絶えず、子女の身體極めて虚弱で、年中病人の絶えない家もあります。父が飲酒家たるため子女も之を眞似、一家擧つて酒を飲み、近所隣りにまで迷惑をかけるやうな家庭もあります。殊に婦人が酒を飲む癖があれば家庭は實にダラシなくなるものであります。飲酒の弊は如斯に家庭の幸福を破るのみならず、國家の平和國民の幸福を不知不識の間に甚だしく害するものであります。或處に一人の婦人がありましたが、初め其良人と婚約を結ぶ迄は少しも其男に酒癖のある事を知らなかつたものですから深く取調べもせずに輕々しく契約致しました、すると愈々式も了つて其婦人が男のものと決まつたところが、男はそろ〱假面を除け飲酒を始め、花柳の街衢に通ふ樣になりましたので、新家庭の樂みと云ふものは全く見ることが出來ず、樂しき希望を抱いて嫁したる婦人は其後何時も泣き暮してをります。折角婦人と生れて未だに家庭の高尚なる快樂を少しも經驗する事の出來ないとは誠に氣の毒な事であります。而して斯の如き不幸な境遇に陷つて泣き暮して居る婦人は世に少くない事と思はれます。未婚の婦人方は良人を選ぶに當り深く此點に注意せられんこと最も肝要であります。

人を酩酊せしむるものは單に酒類ばかりではありません、阿片、モルヒネ、鹽酸、コカイン、及び之と同種類の藥劑はまた危險なものであります。而して其害毒は之を服用する個人にのみ止まらないで子孫永久に其害毒を流し肉體、精神を共に病的ならしむるものであります、阿片及びモルヒネは醫士が往々之を使用し、病人は之によりて其苦痛より容易に免かるゝ事を經驗して居ますから、後には之等の藥が身體に如何に有害なるかを知らずして、自分勝手に之を服用して一時其病苦を免かれんと致します。そして度を重ぬるに從つて遂には之が習慣となつて何時も之を服用したくなつて參ります。そうすると既に弱くなつて居る意思は遂に此慾望に打克つことが

出來ず、其欲するが儘に素人分量で無暗に之を服用し、かくして自然に惡しき習慣を造り、自分の身を亡ぼし、其害惡を子孫百代の身體及び精神上に繼承せしむるやうになります。

ドクトル、ロバルトソン曰く精神錯亂、舞踏病、ヒステリー、偏頭痛、飲酒狂、道義心の錯亂、などは一として遺傳的傾向なしには偶然に發するものでない、と。

モルヒネの害は酒精の夫れよりも更に大なるもので遺傳の力も酒精の夫れに少しも劣りません、殊に道德力は甚だしく減殺せらるゝものであります、モルヒネの爲めに全く溺らされる人或は他の之に類する藥品を服用する事の習慣となつた人は、とても己れの名譽を保ち、正直にして、意識を備へたる人となる事は出來ません。其害毒は漸々甚だしくなつて遂には其人の一生を全く朦朧の内に葬らねばならぬやうになるものであります。

ドクトル、ブラッシュ曰くコカインは阿片の蒸發氣を吸入するよりは更に危險で、更に苦しき結果を來すものだ、と。

吾々の日常生活で甚だ危險な事は、勞少くして功多からしめんとのみ考へ、其方法を何うかして講究したいとあせる結果、何時しか其氣力を増益することはおろか、却つて其力を消耗しつゝあることであります。

ココア、チヨコレート、コーヒ、茶及び之に類する飲料を用ふれば一時氣力が増進せられたかの如くに考へられますが、其實は反對であつて既に貯藏されて居る資力をまで無暗に消費して結局神經の破產を來すやうになるのであります。親が一度神經の破產即ち神經の常軌を失ひ神經的種々の病氣にかゝりますと、遺傳の方則に從つて其子々孫々の幸福をまで破ることになります。されば各々日々の生活に深く注意し、之等の害多くして得少なき飲料を用ふる事によりて我家に惡しき血統を創造しないやうに堅く愼まねばなりませぬ。

今日の世の中で最も危險なる然も最も普通な習慣は煙草を喫する事でありませう。喫煙は丸で一種の必要物の如くに思惟され、之を爲すこそ普通の事なれと云はんばかりに一般に行はれ、政治家でも、實業家でも教育家でも、勞働者でも之をやつて居ます、彼等多くの者の間には煙草の有害な事は明かに認めながら其惡習慣より脫し得ない薄弱者も多くあります。煙草は科學的研究の結果甚だ有害なものでありまして心臟、咽喉、神經など一として害を受けないものはありません、而して其害毒は喫煙者の子女の身體及び精神にまでも恐るべき害毒を遺傳するものであります。

罪なき子女等が神經衰弱に苦められ消化器官の不良に痛みを覺ゆる原因は其母たる婦人が其欲するが儘に喫煙したる度に正比例するものであります。婦人たるもの大に戒心せねばなりません。

米國の或統計によれば、かの南北戰爭の頃は徵兵檢査を行ふに當りて不合格者は僅かに全壯丁の一割三分であつたが此頃では不合格者が三割一分あると云ふ事であります。殆んど以前よりは三倍の壯丁が兵隊としての勤務に堪ゆる能はざる程に惡い體格になつて居ます。之れ如何なる原因でせうか、煙草の害毒が其大なる原因となつて居ると云ふことであります。また數年前アンナポリスの海軍兵學校のハウストン少佐は、同校入學を許可せらるべき生徒にして心臟病の爲めに拒絕されたものが全員の五分の一にして、其九割は喫煙の結果心臟を損傷つたものなることを記載しました。

ヒステリーや憂鬱病や、肺病や、一寸坊の樣に小さな不恰好な體格や、喫煙者の子女等が苦痛の一生を終る事や、早逝するやうな事は皆其父母より繼承せし肉體の虛弱なるに基因するものであります。

或處に極く考へ違ひの娘がありまして、大の煙草好きな男と結婚しました。すると子を產むやうになつたところが、產んだ子は死に、產んだ子は死に、三人まで死にました。是等不幸なる三人の子供は皆幼

兒の痲痺で倒れました。之れ其良人が大の喫煙家であつた爲めに其害毒が小供等の身體を殺したのであります。其婦人は初めて自分が喫煙家と結婚した事の間違つて居たことに氣付きました。そして死んだ子供ばかりでなく自分が毎日毎夜其良人の喫する煙草のニコチンで中毒された室內の空氣を呼吸して甚だしく苦められ、遂には其健康までもいたく害せられたことに覺醒し、如此の喫煙者と結婚した事を深く悔い、悲しき一生を送つたと云ふことであります。

醫者の見たる水

東京醫科大學　神尾　驥子

我々人間の身體は種々の物質より構成せられております、卽ち皮膚筋肉、骨、神經、脂肪等より組みたてられております。併し之を化學的に分解して見ますれば、人間のみでなく、總ての動物の主なる成分は水と、蛋白質と、脂肪とであります。此外には少量の鹽類、糖類等を含んで居ります。是等の主成分の中で、蛋白質は生物にばかりあるもので生物の特徵とも見るべきものでありますから、其の必須の成分である事はいふ迄もありません、之に反して、水は世界中至る所に存在し、物體の生と無生とに無關係に含有せられて居るものでありますが、其の生物に必要なる事は蛋白質に劣るものではありません。我々人類の身體の凡そ三分の二は水より成るものであります、例へば今十五貫目の體重をもつて居る人があると致しますれば、其の三分二卽ち十貫目は水でありまして、殘りの五貫目が蛋白質脂肪等から出來て居るのであります、でありますから十五貫目の人を乾燥して全く水分を取り去る事が出來ましたなら、其所にミイラとして殘るものは僅か五貫目しかありません。

身體の種々の組織の中で、最も水を澤山含有して居りますものは筋肉軟骨等でありまして、凡そ其の七

割は水より出來て居ります、脂肪組織は一割、骨は堅硬であつても四割の水を含んで居ります、身體の中で最も水分の少い組織は齒の表面を蔽ふて居る琺瑯質といふもので、硝子位の硬さをもつて居りますが猶ほ千分中二分の水分をもつて居ります。

斯樣に澤山の水をもつて居るのは人間ばかりでありません、總ての動物は勿論、植物も同じ事で、最も堅い材木でも、其の生きて居る間は六割或は七割の水分を含んで居ります。下等の動物になりますれば水分が多くて九割以上にも上り、其が如何して一定の形を保つ事が出來るかと疑はるゝ程のものもあります。クラゲの如きは最も普通の例であります、また菜の葉の如きも水分を取り去れば、其の百分一も殘りません、故に學者は『生物は半流動體である』と申して居ります。

生物の生きて居る間は、其の身體に物質の新陳代謝といふ現象があります。卽ち新しい物質を取つて舊物質をすてる現象でありまして、我々が食物を食ひ屎、便其他の形を以て放出するものであります、此の新陳代謝の全現象は頗る複雜なものでありますが、其は總て水の助けによりて行はるゝものであります。新陳代謝の第一の現象は食物を食ふ事でありますが、此は水がなくては出來ません、水なければ嚙む事も嚥み込む事も出來ません、また食物の料理は總て水を用ゐます、そして我々が物を食ふ時には口中に唾液といふものが分泌されます、此の唾液は物を嚙み又嚥むに必要なるばかりでなく、食物を消化するに必要なものでありますが、其の成分は大部水であります。此の唾液の一日に分泌さるゝ分量は實に八合以上或は一升にも達しまして、其の爲めに要する水も亦甚だ大なる事が想像出來ます、更に食物は胃に入り腸に入り遂に大便となりて外に排泄せられますが、其間には種々の消化液の爲めに消化せられ、消化せられた物質は腸からして體內に吸收せらるゝのであります。此の消化作用にも亦水は最も必要なるものでありまして、消化液が大部水より成

るばかりでなく、水がなくては食物と消化液とは混ずる事が出來ません。

更に吸收せられた滋養分は血液の中に入り全身を循環して種々の機官を養ふものでありますが、此の血液も亦人の知る如く九十九分は水であります、血液から水を取つたなら其の殘りは殆ど霧となりて、到底種々の機官を養ふ事は出來ますまい。血液は榮養物質を運搬すると共に、組織の中にある老癈物質を其中に溶解し之を腎臟に送りて尿を作ります、尿は即ち此の老癈物を溶解して居る水でありまして、一日に排泄する尿量は又七八合に上ります、又汗も尿と同じ様に老癈物を溶解して居る水でありまして、新陳代謝を助くるものであります。

水はかくの如く物質の新陳代謝をなす場合に、新舊物質を運搬する運輸者でありまして、其の運轉はたえず止む事がありません、丁度河の水が流れて止まないのも同じ事であります。然るに生物の身體其物が既に半流動體であるとすれば、生物は實に一つの水の流れといふても差支ないのであります。

次に吾々人間の體溫は、氣候の寒暖に關係なく、常に一定の溫度を保つて居ります。之れは體内で物質が新陳代謝する時に、物が燃ゆると同じ様な化學作用を起し熱を發生する爲めでありまして、其の熱は血液の循環によりて全身に平等に分布されるのであります。そして若し外氣が暑い時は血液はなるべく皮膚の方へ出て參ります、然る時は皮膚の溫度は高まりますから熱が澤山外へ放散されるので體溫は外氣が暖かでも上昇する事はありません、それに血液が表面に集まつて來る時は、從つて汗が澤山出て、其れが蒸發する時に多量の熱を奪い去るのであります。暑い夏、汗が流れるのは即ち此の爲めであります。之に反して寒い日には血液は身體内部に集まりますから熱の放散する事も發汗する事も極めて少いのでありまして、爲めに體溫を一定に保つ事が出來るのであります。若し寒い日に血液が表面へ集まつて來ました時は、熱は悉く放散せらるゝ爲めに體溫

が降下してしまいます、例へば雪中の旅行に酒を飲む事は禁物であるのは此の為めであります、酒を飲みて身體の温まるのは血液が體表に集まるからでありまして、其為め熱の放散は甚しくなり、體温は降下し遂に凍死するに至るのであります。要するに體温を調節するには血液と汗とが其の主なる役目を有つて居りまして、即ち水がなくては體温を調節する事が出來ないのであります。

其他水が生物の生活に必要なる所以を一々あげましたなら實に驚く可きものでありまして、普通山にも野にも至る所に見らるゝ其の水が如何に我々には有難いものであるかゞ知られます。其の必要なるは敢て直接ばかりでなく、間接にも食物の調理、器具衣服の洗濯、家屋道路の掃除、更に進んでは動植物の飼養等何れとして水を要しないものはありません。此世に水なくては人は一時も生活する事が出來ないのであります。

然らば人の一日に使用する水の量は如何程でありませうか。之れは其の職業習慣性質其他により、また其社會の工業上の進歩の如何によりて種々であります。又同じ人でも日によりて差異があります。平均飲用及使用水を合して凡そ一日七斗乃至八斗位は必ず必要であります。中飲用水としては少くとも一升乃至二升を要します、之れは新陳代謝及温度調節に必要なるものでありまして、尿として七八合、汗として五六合、呼吸の際にも同じ位の水分を排泄致しますから、是等の損失を補ふ為めに少くも一二升の水は必要なのであります、猶は飲用水の量は運動其他の關係によりて增減があります。斯樣な關係からして、水道の備ある所では其の給水する水量を之れに相當して分配せねばなりません、東京では其の給水量平均一人一日五斗五升の割合で即ち飲用には充分でありますが、總ての使用水を加ふれば不足であります。横濱はもつと少くて僅か四斗平均になつて居ります。之に反して米國の紐育の如く工業の發達して居る所では其の給水量は一人一日二石三升ばか

りに相當して居ります。人が若し水を飮まなかつたら如何なるでありませう。併し其より先きに人は水を飮まないで居る事が出來るでありませうか、其れが既に問題であります。我々は水を斷つには同時に食物を斷たなければなりません、我々の常食である飯も麵麭も皆多量の水を含んで居ります。然し比較的水を含む事の少い食物卽ち甚しく乾燥した食物のみを食ふて居る事は出來ます、例へば乾物、麥粉の類であります、然し斯樣の食物を長く食ふ事は出來ません、多くは二三日で是等の物を食ふ事も嚥む事も出來なくなります。遂には斷食したと同じ結果になりまして一週間か十日內外で死にます。

此迄斷食して、人は何日間生きて居らるゝかに就て屢〻實驗せられましたが、少くとも二週間以上、甚しきは三十日も生きて居つた例があります。然し是等の場合には實驗者は水を斷つ事は致しませんでした、若し同時に水をも斷ちましたなら、三十日は愚か二週間の長きに達する事は出來ません。精神病に罹つた人には或る妄想の爲め、食物も水も全く拒んで飮食しないものがありますが、かゝる人は多くは一週間以內、長くて十日間には死んだものであります。成田山では『行』と申しまして、信者が斷食をして神を祈禱して居りますが、其の人等は二週間或は三週間も其の『行』を續けます。然し彼等は決して水を斷つ事は致しません、若し水も飮まなかつたなら如何に神妙なる神樣の擁護がありましても、二週間の『行』はつゞけられますまい。

我々は又水を水として必要なばかりでなく空中の濕氣としても必要であります、空氣があまり乾燥し過ぎますれば、皮膚及び粘膜よりの蒸發が甚しく口、鼻、咽喉等は悉く乾燥し、言語、呼吸等に障碍を起し、更に其所の粘膜に異狀を起します、冬喉頭加答兒を起すのも一は冬の空氣は乾燥して居る爲めであります。之に反して濕氣が多過ぎますれば、皮膚よりの蒸發は甚しく妨げられ、體溫の調節が不充分と

なり、種々の疾病を起すに至ります。要するに人は生活する上は一定の水を飲まなければなりません。然らば如何なる水を飲んだら宜しいでせうか。井戸の水も下水の水も同じく水でありますが、誰も下水の水を飲む人はありません。之れ井戸の水は清潔であるが、下水の水は不潔であるからであります。清潔であるとは何も混合物をもつて居らぬといふ事でありまして、謂はゞ純粋であるといふ事であります、併し水といふものは誠に不思議なものでありまして、いかなる物をも溶解致します。金屬でも、鑛石でも、水にふれて多少溶解しない物質はありません。硝子でさへ少しづゝ水に溶解するといふ事であります。でありますから通常純粋な水であると思つて居るものでも、化學的に詳細に研究して見る時は、眞に純粋の水ではありません。蒸餾水は水を沸騰させ、其の蒸氣を硝子管で導き、冷却させた水でありまして、化學者は純粋な水であると思つて居りました、併し水は硝子をも溶解させるものであるとすれば蒸餾水も純粋な水ではありません。まして井戸や清水の水が純粋な筈はありません。地中にある種々の物質を溶解して居ります、即ち食鹽石灰、マグチシウム、硝酸、硫黄、鐵、炭酸瓦斯等は何所の水にも溶解して居ります。然し乍ら我々は斯様なものが溶解されて居るからとて、其水を不潔であるとは申しません、唯だ其等の物質が多く溶解されて居る時は、之を飲用にすれば種々の障碍を起します故、用ゆる事が出來ません。例へばマグチシヤ、石灰等を澤山含んで居る水は硬水と申しますが、斯様な水を飲用にいたしますれば消化器を害し、下痢を起します。

食鹽も同じ様に消化を害しますが、そればかりでなく、食鹽は動物植物或は其の排泄物等の腐敗する時に生ずるものでありますから、井戸や清水の水が多量の食鹽を含有して居るといふ事は、其の水は腐敗物を含んで居る事を示して居るのであります、腐敗した物質を含んで居る水は飲用にしてはならない

のはいふ迄もありません。海水の食鹽は非常に多いものでありますが、此れは敢て腐敗物を多く含んで居るといふわけではありません。

併し又、一方には石灰、炭酸瓦斯を全く含んで居らない水は、かの一種いふ事の出來ない水の美味を持て居りません。蒸餾水は是等の物質を含んで居りませんが從つて其の味は極めてあしく、少し多く飲みますれば嫌厭の情さへ起ります。湯ざましのまづいのも此の爲めであります。

自然界にある水は以上の物質の外に多少の腐敗物質を含んで居ります。之れは有機物と申しまして前にあげた物質と區別されて居りまして、動植物の死屍及び排泄物の腐敗したものをいふのであります。例へば木の葉、草の根、鳥獸蟲魚の屍、其の羽毛、爪牙等であります、殊に植物の腐敗したものは誰にも目につくものであります。是等の腐敗物は、腐敗物其物が人の身體を害するばかりでなく、危險なる寄生動植物或は黴菌の巣穴となりて居りますから、少しも油斷のならぬものであります。

今下水より一滴の水を取りて參りまして、顯微鏡の下に覗き見る時は、無數の小動物が盛に運動して居るのを見る事が出來ます、或は圓きもの、或は卵形のもの、或は草履に似たるもの、或は蛇の如きもの或はつりがねの如きもの、實に千種萬態で、熟視するに從つて其の興も益々深くなつて參ります。是等の小動物の間には更に綠色をなせる植物、黄色を帶びたる動物の卵子、植物の種子も無數に存在して居ります。是等の小生物は決して下水の水にばかり居るものではありません、井戸の水にも淸水の水にも全く居らぬとは限られません、殊に其の卵子の如きは塵と共に運搬さるゝものでありますから大抵の水には存在して居ります。そして夫等の多くは無害といふ迄でなくとも有害ではありません。然し此外に有害な人體に寄生する生物の卵子をもつて居る事があります。即ち十二指腸蟲、廻蟲、蟯蟲、條蟲、チストマ等の卵子は何れも水中に居りまして種々の方

法で人の體内に入るものであります。

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉

（二三）活ける家の主人の居室（下）

記憶を良くするには神經細胞を健康にしなければならぬ、神經細胞を健康にするには差しあたり適度調理された良い食物を攝らなければなりません。此食物は胃や腸から消化されて血液となり、腦に循環して之を養ふものでありますから、胃腸も丈夫であり心臟も健康でなければなりません。實際胃腸が惡く心臟の弱いものには記憶の良くないものが多くあります。胃腸をよくし、心臟を強くするには適度の運動が必要であります。然しながら過度の運動は却て記憶を惡くするものでありますから、疲れ果てる迄運動するのは宜しくなく、すべて適度にしなければなりません。疲勞た時には平素熟知して居ること迄思ひ浮ばぬ事があります。故に腦を使用に一時は成る可く骨の折れる、氣のつかれる仕事や運動をせぬ方が良いのであります。

神經細胞を健康にして之に大なる勢力を與へる所の食物は、殊に米穀、果實、野菜、肉類等の樣な單調なもので、其最良なる飲料は淸水であります。

新鮮なる空氣と日光も神經細胞を養ふ上に於て頗る必要なもので、肺を擴げて新鮮なる空氣や日光を吸ひ込む度毎に、新たなる生命と勢力とは、水の深きに流れ入る如くに、洽く人體内に注ぎ入るものであります。

飲食物は粗惡であり、周圍の空氣も不潔であれば、神經細胞は益々疲勞するばかりで、斯かる神經細胞に向て記憶を良くせよと云ふのは、飢へた馬に迅速に走れと云ひ、眼を掩ふて眞つ直ぐに歩めと云ふと同じであります。

煙草は腦の敵

であつて、何等の益もないものでありますが、之を喫

するのが寧ろ一般の風習となつて居るのは誠に歎はしき至りであります。煙草の毒は他の毒と同様に身體組織を害すること甚しく、先づ運動神經を害し或はその生長發育を妨げるもので、濫りに喫煙する者は文字を書くのに手指の震顫る様なことがあります。視神經も害はれて視力が鈍り、睡眠は妨げられ記憶は甚しく惡くなります。

アルコールも腦の賊

で、精神力を盗み去ること甚しく、之がために記憶の害されること著るしいものであります。かゝる賊に欺かれぬ様にするのは吾々相互の本分であります。

睡眠は腦の疲勞をいやす唯一の良劑

で、たとひ牛乳を溢れる程飲み、鷄卵を飽きる程食べても、睡眠の十分の一だけの效果を收める事の出來ぬものであります、スコットランド人の信ずる

ブローワインと云ふ神

は、家人のすべて寢靜まつた頃をうかゞひ、夜な夜な來ては塵を拂ひ、廊下を拭き、パンを焼き、牛乳を沸かし、食事の仕度くを殘らず濟まして行くと云ふ事でありますが、我々の身體に於けるブローワインの神は即ち夜間の睡眠であつて、我々が寢入り込んで何事も知らぬ間に、明日の活動に必要な元氣精力を順備して行くものであります。數日の間一椀の食、一杯の水を口にしないでも死ぬ氣遣ひはありませぬが、數日の間一睡もせずに活きてゐるのは頗る難いことであります。たとひ一夜でも全く眠られぬと云ふ事があれば、元氣精力の著るしく消耗して、何事を爲すの勇氣も湧き出さぬものであります。有名な

シェークスピア

と云ふ詩人は『睡眠は解け亂れたる注意の袖を、再び正しく結び合すものである』と云いました、此比喩は人體に於ける睡眠の效力を、遺憾なく云ひ表はして居るやうでありますが、全く適中した比喩ではありません。蓋し『結び合はせる』と云ふ言には、既

に消耗した古き物質を再び使用ふと云ふ意味を含んで居りますが、身體の組織には決して一度び消耗した古き物質を再び用ふると云ふ事は無く、古き物質は必ず排泄されて新しき物質が其定位を滿たすやうになつて居ります。之を新陳代謝の作用と稱ひ、睡眠中に於て完全に行はるゝものであります。昔佛蘭西の財政家は

何故睡眠を賣る者は無いか

と嘆息したそうでありますが、夜も晝もオチ／＼と眠られぬと云ふ人に取つては『睡眠を賣買する市場もがな』と願ふのは當然であります。完全な健康と強き精神の力と、明晰な頭腦とは充分眠なければ到底得られるものではありません。

嬰兒を見てもわかります

乳を哺む時の外は殆んど絶へず眠つて居ります、これ嬰兒は身體組織を益々盛んに組み立てゝ行かねばならぬからであります。故に發育盛りの小供は成人よりも餘分に眠らなければなりませぬ、が、成熟してから後の人でも睡眠が不足であれば必ず身體の諸機關を害するものであります。

日中立ち働らいて居る間に我々は人體の活力を消費しつゝあるもので、腦力を使用し、筋肉を勞作し、感情を働らかせる都度、身體の活力は必ず多少消費されて細胞に一定の變化を起すものであります。此變化は又絶へず補はれなければならぬので換言れば人體を組織てゝゐる原子が絶へず死滅しつゝあるが又之が補はれるから玆に始めて生命の持續と云ふものがあるのであります。即ち我々は絶へず

死んでゐるから生きてゐる

のであります。死んだばかりではいかん、生きなければなりませぬ。生きる道はたゞ二つ、一は榮養物の攝取、一は充分な睡眠。殊に一身を牀上に横へ、一頭を枕に委ねる時に於ては、心身の凡ての機能が休息して、一に榮養補休と云ふ一點に集まるものでありますから、此機會を利用して使ひ盡くされた細胞内容を去り、新しい材料を供給する時となさねば

なりませぬ。熟睡から醒めた時の心地程爽快で、元氣で、希望に滿ちた時はありませぬ。故に多く眠ると云ふのは健康長壽の要訣であります。何人の戯れ言か『眠て居る間は死んでゐるのである、五十年と相場の定つた人生を成るたけ眠ないやうにするのは即ち長壽の所以である』とは。或る苛酷なる一主人は其雇人を使用するに『汝等は朝早くから起きるから夜は遲く迄働いてゐろ』と云ふたそうであります。が『夙に起き夜に寐ね』と云ふ古への教訓も全く之と同じ理で、生理の道を辨へず、衛生の法を解せざる愚昧の言と云ふべきであります。

宰予は晝寢をして孔子から見離された

と云ひますが、晝寢をした計りで成業の望みなしとせられたのではないらしい、支那の風俗で、女子の部屋へでも入り込んでゐたのであらうと思はれます。若し然うでないとすれば滔々たる今日の青年は何れも皆『糞土の檣はよづべからず』との叱責を蒙るべきものであつて、孔子も案外『話せない男』との謗りを免れないのであります。莊周は眠つて夢に蝴蝶となり、盧生は邯鄲に眠つて夢に封侯を得たとの事でありますが、我々も睡眠によつて健康を得る事が出來るのであります。然らば

何の位眠たら良い乎

と云ふに之は人に由て違ふもので、生活機能が活潑に行はれる人で、一旦費ひ盡くされた材料は速に排棄され、新しい材料は速に身體組織になるやうなものであれば、七時間も熟睡すれば充分で、明朝再び清新なる元氣を鼓して其日の業に就く事が出來ますが、多くの人は、疲勞を恢復するために八時間乃至九時間以上寢なければなりません。若し夜間に妨げがあつて所要の時間だけ眠ることが出來なかつた時には、翌日晝寢をして之を補ふ樣にしなければなりませぬ。ナポレオンは夜間少時間しか眠らなかつたが、陣中に居つては隨所隨意に眠つたと云ふ事であります。さりとて

眠りを貪るのも惡い

殊に長時間牀上に横つて眠れるが如く醒めたるが如く、朝寝の際に多くの時間を徒消するのは宜しくない。眠ると云ふのは牀上に横つてゐると云ふ意味ではありません。

憂慮、煩悶、恐怖、發癇

も腦を害し、或は全く生命を縮めるものであります。腦力を強くしやうと思ふものは平然として、些細の事件に思ひ煩はぬやうにしなければなりません。尚ほ左に記憶をすゝめ、或は之を強くする單純なる方法を述べますならば

第一、一度に多くの事を學ばうとしてはなりませぬ

少しづゝ漸々に學ぶ様にし、一時に多くの事を屈托せぬやうにする。

第二、能く理解しなければ能く記憶する事が出來ませぬ

理解せずして記憶すれば、單に記憶た事柄が腦の中にラチも無く羅列されてあると云ふだけで、何等の價ひも無く、何等の活用もされぬものであります。

第三、毎日少しづゝ記憶する

腦をして毎日多少づゝの智識を吞はねばならぬと云ふ事を悟らせ、少しづゝでも之を記憶させる様にすれば、他日記憶し得た總量は頗る多く、且つ日々記憶力は増進するものであります。

第四、一旦記憶した事は時々之を復習する

毎日行ふ事柄は考へなくとも自然に營まれる様に、一旦記憶した事柄を時々復習する様にすれば、其記憶は益々深く刻み込まれて決して忘れらるゝものでありませぬ。

第五、自然の順序、排列

によつて記憶すれば甚だ易く、一旦忘れ果てゝも之を思ひ出すに容易であります。要するに深い注意と專念一心と、充分なる理解と、復習と、記憶し易い様に順序だてる事とは、誠に記憶の要訣であります。

頭髪のたしなみ（續き）

K．H．生

頭垢の多い爲に頭髪の薄くなる樣な場合には輕症なのならば一%のかるぼーるあるこほるか幾那丁幾を頭の地に擦込むのが一番よろしい、或は略三合許りの微温湯に鷄卵一個分の黄味を溶かし、夫へろーずまりー精一おんすを加へて充分振り混ぜ、まだ其温味の冷めぬ間に頭皮に擦こむのも效能があります。

併し稍重症なのになりますと最初は毎日一二回、後には一週に一二回宛、緑石鹼と微温湯とでよく洗ひ毎夕次の處方の藥を頭の地に擦りこみ、翌朝夫を拭取つた後で更に一〇%の硫黄軟膏を塗るのであります。

水楊酸　五．〇
阿列布油　一〇〇．〇
蓖麻子油　一〇．〇
べるがもつと油　六滴

上の手當を行つて大分頭垢が減つた處で更に單純な硫黄劑を用ゆるか或は次の藥を塗るのであります。

れぞるちん　二．〇—五．〇
蓖麻子油　一〇．〇
酒精　九〇．〇
ぺーりゆうばるさむ　〇．五

又御婦人では日中に硫黄軟膏を塗て居らるゝ譯には參りませぬから日中は上の藥を塗り夜分お寢る時に軟膏の方をお塗りになればよろしい、而して四日目位に一度緑石鹼又は加里石鹼で充分髪を洗ひ清め、よく乾き切つたあとで再び前の手當を繰返すのです、根氣よく此手當を行て居ますと、どんなふけ性の方でも仕舞には追々頭垢が立たなくなり同時に痒味もなくなつて綺麗な地の頭となります。

頭の油の多過るのと同じ樣に汗の多過るのも禿髪の原因となります、汗の多い方は始終緑石鹼か加里石鹼の樣に成るべく刺戟の少い石鹼で頭髪をお洗ひに

なる事が必要であります、其外次に掲げたリープライヒ氏の髪洗水にて洗ふのもよろしい。

えーてる精　五〇・〇
安息香酸　じ・〇
わぜにゝりにー　〇・〇五
へりおころにー　〇・一五
げらに油　一滴

毛髪の病氣　是迄申上ましたのは外から來る樣々な事柄が原因となつて毛髪の弱くなるのでありましたが、玆では毛髪自身の病氣に就て御話しを致します。

毛髪の病氣に就てはまだ充分研究せられて居ないのが多う御座いますが其中で割合に良く研究されて居るのは結節裂毛症と申すものであります。是は毛髪の處々が少許太くなつて灰色がゝつた節ができるのです、而して恁云毛を引張ますと其節の處からぷつゝりと誠に脆くちぎれて仕舞ふのであります、此ちぎれた節に成てる處を顯微鏡で調べて見ますと、其處丈毛の質が極細く縱に裂けて居て、丁度掃氣を洗落した畫筆の穗尖を上下から對ひ合した樣になつて居るのであります、ですから此處でちぎれた一方の毛の端は化粧刷毛か何かの樣に成て居ます、此病氣を一番澤山に見受けるのは男子の髯でありますが極稀には亦御婦人の頭髪に於て之を見る事もあります、一度之に罹りますと何んなに房々した豐かな頭髪でも知らぬ間にぷつぷつ切れて仕舞つて或は美しい髷ぐるみ切つて落ちたと申す樣な例もあります、原因に就てはまだ充分研究が行屆ては居ませぬが、多分一種の黴菌の寄生によつて起る物らしく考へられるのです、豫防法としては毛を除り度々石鹼で洗ふとか總て毛の油を拔過る樣な事をせぬのがよろしい、又一度之に罹つた上は夜分お寢になる前に次の藥を毛の根から尖の方まで揉みながら丁寧に塗る樣にすれば容易く治ります。

蓖麻子油　一〇・〇
酒精　五〇・〇

薔薇油　二滴

次にひえどらさ申す病氣は之も蟲の卵か何ぞの樣に灰白色に黄味を帶た小さなものが毛髮の處々に附著くのであります、而して其は毛の全周をぐるりと取捲てる事があり或は其一部分丈を取捲てる事があります、此原因に就ては近頃の研究で、或一種の黴菌が毛に巣をくつて繁殖する爲に起るものである事が確められました、此病氣は好んで女の長い毛從つて御婦人の頭髮などに繁殖し易いものですから平常充分に注意をして少しでも怪しいとお思ひになつたら直ちに適當な手當をお加へにならなければいけませぬ、手當と申した處で別に替つた方法もないので只成るへく毛髮を清潔に致し若し病氣が始まつたならば結節裂毛症の處で申上たと同樣な油藥をお塗りになればよろしいのです。

紡錘狀毛髮症と申すのは毛髮の根から其尖端迄の間で太い所と細い所とが入交つて丁度珊瑚樹の幹の樣な外觀を呈するのであります、是は多くは性來でありますが中には亦成長してから大分たつて此樣な質の毛になる人もあります、何れに致しても毛の根の異狀に基くのですから之を根治すると云ふ事は難かしいのです、尤も斯云毛髮は甚しいのでさへなければ之が爲に毛の折れ易くなると云樣な事はありませぬが櫛の齒にかゝり易いので頭髮を梳く折々邪魔になりますのと、今一つは如何しても癖毛となる恐れがあります、ですから之は癖毛の處で申上た樣な手當をなさるより外に方法もありますまいと考へます。

毛髮を侵す寄生蟲　此中で一番有觸たのは白癬俗に云ふしらくもであります、是は一種特別の小芽胞菌の寄生する爲にできるもので、多くは十歲以下位の小兒の頭に見るのであります、其周圍の毛髮は一寸引張ても直ぐに折れる位に脆くなり且つ光澤も無くなつて丁度灰色の塵を被つた樣になります、存外痛味も痒味も無いので當人は餘り氣にも致さぬ場合が多い樣ではありますが久しく放擲て置きますと仕

舞には頭許でなく顔の皮膚までも擴がりますから成るべく早く治療を加へる必要があります、同じ年輩の小供でありながらしらくもは頭は男の子に許あつて女の子の方に見當らぬのは何故かと申しますと是は女兒の方では頭髪に油を塗る爲だと考へられます、總て小供の時代は頭の皮脂の分泌が割合に少いので毛髪の潤ひと養とが十分でなく、從つて此樣な黴菌の寄生し易い機會を與へるのであります、其所へ參りますと女の兒は男兒とは違つて始終頭髪へ油を塗ると云ふ事が自然此等の黴菌に對する豫防となつて居るのでありませう、ですからしらくもを豫防には斯云病のある小供に近寄らせぬ樣にするのは勿論、猶其上に始終頭髪を清潔にし、折々少許香油を塗るのも必要な事であります。併ししらくもに傳染して仕舞つたものでは輕症の時には沃度丁幾を塗る位で十分な利目がありますが、稍頑固なものになりますと、先づ頭髪を短く刈込むか或は其部分だけの毛を悉皆拔取り、跡を加里石鹸で十分に洗ひ、酒精及こるほるむを塗り、一〇％のれぞるちん硫黄軟膏、或はてーる丁幾、五％のれぞるちん精を塗るのであります、併し近頃ではくりざろびんが一番良く利くと申す事であります。

次に黄癬と申す病氣も一寸しらくもに似ては居ますが是は毛の根の頭の地に黄い圓板を作る點がしらくもと違て居ます、多く海岸の漁師や何かの小供に見受けるもので之も黄癬菌と申す特別なる黴菌の寄生によつてできるのであります、頭の地の黄い圓板の部にある毛髪は段々榮養が衰へて細く短かくなり折れ易く脱け易くなるのであります、而して圓板の取れた後には瘢痕を殘して禿となり其所丈久しく毛が生えないで止まる事があります、療法としては之も成るべく毛を短かく刈込んで加里石鹸で十分に洗ひ後には一％の昇汞精を塗るか或は一〇％の沒食子酸軟膏を貼り付けるのです、其外硼酸軟膏又は硼酸水の罨法も效能があります。

圓形禿髪症俗に臺灣坊主と申すものは其原因に就て

は種々の說があつていまだ一定致しませぬ、或は神經の病だとも云ひ又は黴菌による一種の傳染病だとも申します、最初は小豆粒が小指の頭位の禿が出來大した痒味も痛味もなく、其うちに追々擴がつて遂には頭一面になり甚しいのになると眉毛や睫毛迄も脫落ちて仕舞ふ樣な事があります、之に對しては消毒劑刺戟劑毛生劑等色々なものを試ても何れも著しい效目がある樣にも見受られませぬ、性の良いものでは禿げてから三四ケ月も經てば再び細い產毛の樣なものが生え初めて夫が次第に濃くなつて又元の通りになりますが、性の惡いのでは有らゆる手段を盡しても少しも效目のない樣な事があります、豫防法としては原因はまだ十分分らぬに致せ頭髮に用ゆる道具一切の消毒を嚴密にする事が大切であります、又一度之に罹りましたならば外へ擴がらぬうちに一日も手早く適當の治療を加えねばなりませぬ、普通一番よいのは〇・五%の昇汞液をよく塗り、其後に次の藥を擦り込むのであります。

水楊酸	四・〇
石炭酸	二・〇
わせりん	四〇・〇

或は次の藥を一週一回禿た部分に擦込むのも時には著しい效目がある事もあります、但し是は劇藥が入つて居ますから醫者の嚴重なる監督の下に於て行はねばなりませぬ。

巴豆油	一・〇
白蠟	一・〇
かゝを脂	一・〇

（續く）

理想の獻立（承前）

B．F．生

第一、食物の經路

a、食物はどんな役目をするか

これは申さなくても明らかな事ゆゑ、唯簡單に一言

申しませう。田舎へ旅行でもなさつたお方は、すぐ合點がゆきませうが、あの水車です、晝も夜も堪えまなく廻りて仕事をして居る、がその力の源は申す迄もなく、高位置にある水で、その水が車を廻して低い谷川に落ちる、人の身體も同じ事で、草木も眠ると云ふ眞夜中でも、決してぢつとしてはゐない呼吸もあれば脈搏もある、この力の源は皆食物で、食物がどんなに變化して人間と云ふ小さい車を廻すかと申せば、汽車の石炭と同じく、體内で食物が徐徐に燃燒して熱となつて三十七度の體温を作り、一部は更に機械的の力となつて、外部に活動となつて表はれます、その行く道筋は食物によつて多少の違いがありますから次には

b、食物の分類

食物は蛋白質性のもの、脂肪性のもの、含水炭素即ち澱粉糖分性のものゝ三つがあります、しかし普通には蛋白質脂肪性のものを動物性、含水炭素を植物性食物と申します、一寸念の爲めに一つ二つ例を揚げませうなら、蛋白質は肉類、卵、豆類に多く、脂肪は牛乳、豚肉に多く又豆類にも隨分あります、含水炭素は米、麥等五穀、馬鈴薯、野菜等に多く含まれてゐます。

c、蛋白質の天職

此れを申すに先つて、一寸申し上げなくてはならないのは、人體の組織です。人體は凡べて顯微鏡的の小さい細胞及びそれの變化物から組み立てられてゐる、その細胞の數は大人凡そ八兆であります、その中血球の數はこの外です。夫れ／＼役目に從つて、姿を變へる、決して烏合の集りではない、恰も國家を組み立つると同じ物な工合に、神經組織は官吏となり、白赤球は憲兵巡査となり、胃腸は百姓となり、赤血球は商人となると云ふ風で、整然たる分業をやつて居ます、この八兆いくらと云ふ細胞は多くは原形質から出來て、原形質は重に蛋白質でできてゐます、生活して居る間、堪えず古きは去りて新しきを要する、此の要求を甘く充たせば、その人は健康

を保つ事が出來るが、細胞一つにでも兵糧をどんどん送つてやらないと、やがて衰弱する。この需用を甘く充たすと云ふ問題の解決が大切である。つい話しが横道へそれて長くなりました。さて蛋白質は細胞の主成分となつて徐々に燃燒して熱を發し又靈妙なる機能を表はして來る、その機能を心理學なんどで一生懸命になつて研究してゐるが、どうも十分に分らない。又哲學者などは、蛋白質の作れる原形質以外に靈魂があるとか、或はないとか云つて、科學萬能の今日に於てすら尚ほ議論區々にして、どの說が正しいのやら、さつぱり五里霧中に迷ふ樣である。

此の蛋白質ばかりは、どうしてもまだ人間の手を作る事が出來ない、しかし祕密の鍵はいつまでも祕めらるゝ事なく、その中には自然の手より人の手に渡さるゝであろう、とは人も信じ又吾々も信ずる所であります。

d、脂肪及び含水炭素の天職

細胞の內にも外にも澤山含まれてゐるが、生活機能の靈妙な心的作用等には全く此の關係で、平常は百性が米を倉庫の中に納めて置くと同じわけで、脂肪は所々に貯蓄されてある、いざ凶年と云ふ時には百性は倉の中から米をかつぎ出して來る樣に、食物が不足するとか、或は病氣とか云ふ時になると、直ちに出でゝ活動する即ち體內で緩慢な燃燒を初め、酸化作用を續ける、が此の脂肪は多くあり過ぎると所謂脂肪肥滿となり、生活機能は遲鈍となります、例へば酒のみなどが時々頓死する事があるのは、其の心臟に脂肪が澤山出來て、恐ろしい心臟麻痺を起すからであります。

含水炭素は體の成分とはならないで、血管內を血液と共に循環して組織の中で徐々に燃燒し、體温を作ります、餘り多過ぎれば肝臟は一時預入れを爲す事も出來て、必要に應じ、いつ何時なりとも使用する事を得る樣になつています。

e、無機物の天職

水、食鹽、鹽化加里、燐酸カルシユウム等數へ切れ

ぬ種々ありますが、皆缺くべからざるものでありま
す。しかし成分となるものとならざるものがあつ
て、燃焼するものは一つもありません。
その中でも水は最緊要なもので、大地を流れては、
雄大なる瀑布となり、紺碧の溪流となり、洋々たる
大河となり、凍つては、アルプス山頂の氷河となり
北氷洋に氷山となり、芙蓉の峰に白冠を戴かしめ、
雲となつては、夕陽に映發して、黄金を流し、雨と
なつては、五彩の虹を中空に架け、古今の詩人をし
て自ら其の情緒を發せしめ、詩となり歌となつた、
この水が體内に入つては、骨となり、肉となり、血
となつて、體重の百分の六十五乃至七十、容積にし
て凡そ四十リットル卽ち二斗二升餘となります、人
はモー水ばかりで出來てゐると云つてもよいほどで
す、前に云つた蛋白質脂肪含水炭素は皆水に溶けて
こそ、初めて化學的反應が起つて、活動が初まりま
す。
燐酸カルシユウムは骨になります、無機物の事はこ
れまでに致[illegible]すが、多量に入らなくつても、然か
し是非必要であると云ふ事は忘れてはならない事で
あります。

第二、榮養分はどうして活動力とな
るか

榮養分を取れば活動が出來ると云ふ事は誰れも知る
所であるが、どんなにして活動となるかと云ふ事は
了解し易くはない。拇指大の木炭の中にあるエネル
ギーを皆使ふ事ができたら一匁の重さのものを富士
の絶頂まで引き上げ得ると云ふことでありますが、
しかし力となつて外に表はるゝ迄に熱となつて放散
されるから足柄山の高さ迄ですら引き上げ得ないと
云ふ事であります、炭がこんな仕事を爲す道順を云
へば先づ木炭が熱となつて蒸氣を作る、蒸氣がピス
トンを押して器械を運轉せしめるのである。蛋白質
脂肪、含水炭素は體内で徐々に燃燒する、その結果
熱が出來ると共に元の性質を失つて、蛋白質は尿素
及びその他の不用物となつて、蛋白質一グラムに就

いて熱量四・一キロカロリーを生ずる、脂肪、含水炭素は分解して炭酸瓦斯と水とになる、脂肪一グラムに就き九・三キロカロリー、含水炭素一グラムに就き四・一キロカロリーを生ずる、身體を靜止してゐる時は、此れ等の熱は心臟を動かす力となる時は皆殆んど放散される、尤も心臟を動かす力も血管へ熱となつて傳はる、人が活動する時には以上の熱は體溫となるばかりでない、一部の熱は仕事となる、即ち一キロカロリーに就き四百二十五キロメートルの仕事をやります、人間と云ふ器械は實に造化の妙を極めたもので、汽車汽船では燃料の十分の一も仕事として用ふる事は出來ない、殘りは皆放散されて無駄になりますが、人間では四分の一乃至三分の一を仕事に用ふる事が出來ます。その殘りはやはり熱として無益に大氣中に放散されます。それで

力の源

を分つて三ッとする事ができる、即ち前申した蛋白質から出づる力、脂肪から出づる力、含水炭素から出づる力、此の三ッの源があつて蛋白質、脂肪、含水炭素皆何づれもエネルギーを作る事ができる、しかしこの三者の内で、何づれが主なるエネルギーの元であるか、一寸考へると蛋白質であらうかと思はれますが、いやそうでない。

蛋白質は主なる力の源にあらず

この事をきめるために澤山な人が實驗をやりました。元來脂肪、含水炭素の中には窒素が含まれてゐないから、分解して尿汗等となつても窒素は出來ない、只蛋白質丈けは窒素含有物であるから、尿中に尿酸となつて窒素ができる、この窒素の量を計れば蛋白質がいくら力の源に用ひられたかを計算する事ができます。

ある日、フヒック氏が自ら山へ登つて、その登るに要した、仕事を計算し、またその傍ら尿の中の窒素を計算して見た。フヒック氏の考へでは、山へ登るため筋肉を甚だしく勞したから、筋肉の元成分である蛋白質がさぞかし澤山分解した事であらう、と思

ひつゝ、運動しない時の尿中の窒素と、山に登つた時の尿中の窒素を比らべて見るに、殆んど差がなかつた。これで見ると、蛋白質はエネルギーの主な源でない、それどころか全く關係ないものとまで結論した。がしかし蛋白質をそう惡しく虐待して仲間外にするのは素略でもあり殘酷であると云ふので今度は有名なプルウゲル氏がフヒックの說の正否を檢するため、ある日の事犬に重い車を引かして、その仕事を計算し、且つ一方では食べさした食物の內の脂肪と含水炭素との量を計つて見た、するとその脂肪と含水炭素とではやつと心臟の鼓動に入る位しかのエネルギーである、それに拘はらず犬は仕事をして居る、でやはり、蛋白質もエネルギーの源になつたに相違ないと、フヒック氏の說に反駁を加へました。その後、色々澤山な學者が硏究した結果、日本人では全エネルギーの八分の一は蛋白質から來る、肉食盛んな歐洲人では六分の一が同じく蛋白質から來ると云ふ事が明らかになりました。それで全エネルギーの八分の七乃至六分の五は凡て脂肪と含水炭素から來る、この二ツの中でも含水炭素が大部分を占めてゐます。

以上で食物が活動となり又は體溫となる道順及蛋白質よりも含水炭素がエネルギーの大切な源となつて居る事を述べましたから、以下これ等の食物をどんな割合に、献立表に載せたらよいかと云ふ事にお話を進めたいと思ひます。

（以下次號）

家庭衞生

衞生雜話

H。S。生

（二）結婚の話（下）

男女何れの年齡が結婚に最も適せるかと云ふことを結論するには、いろ〳〵の條件をあげて、然る後に

解決を與へるべきである、が然し、茲には只一つの事實を擧げて見よう。

それは外の事でない、結婚したる女子につき、初產までの歲月を檢べ、更に不妊との關係を明にすることである。

山崎氏が一千十名の婦人につき、結婚後初產に至るまでの歲月を調査したる處に據ると、結婚後十五ケ月以内に分娩するものは、滿二十歲より滿二十五歲十一ケ月の間に結婚したるものが、その以前及び其以後に於て結婚したものよりも、遙に多い、それから又不妊症の數も此年齡が最も少いのである。

楠田氏が、右の關係に就て、兩度まで調査したる處に據れば、滿二十歲乃至二十五歲の間に結婚したるものは、これより早きもの、及びこれより晚きものより、結婚後一個年以内に初兒を擧ぐること著しく多く、且つ、二百三十の夫婦について、夫妻の結婚年齡と、其出產兒の多少とをしらべて、夫妻ともに二十歲以上二十五歲以下に於て、結婚したるものは兒を擧ぐること、これより早きもの、又は之より後に結婚したものよりも、多かつたと言ふことである。

以上二氏の成績に據つても、滿二十歲乃至二十五歲の間に結婚したる婦人は、これより早く、又之より晚く結婚したる婦人よりも、生殖生活に好適の時期に結婚したと言ふことも出來る。

それであるから、結婚の年齡は、早きに失しても、又晚きに失しても、害がある。

我が國の結婚の統計を見ると、妻の年は、滿二十歲から滿二十五歲までの間に結婚したるものが、之より早きものと、之より晚きものより著しく多いことは、生理上、衞生上頗る喜ぶべきことであると思ふ。

それから、早婚のことであるが、此早婚と言ふことも、標準が問題である、例へば男女何歲までを、早婚とするかが問題である。

マイヤ氏は、男子は二十五歲、女子は二十歲を區別

の標準とすべしとなし。高野氏は、我邦では、男子二十歳以前、女子十八歳以前の結婚を早婚と見てよからふと言ひ、楠田氏の如きは、二十五歳以下を早婚と名けるが妥當だと考へて居らるゝやうである。兎に角早婚の年齢標準は、二十五歳とするも、二十歳とするも、或は十八歳とするも、要するに、その年が若ければ若い丈け、それ丈け、弊害は多いのである。

月經は、十四、五歳の頃に、初めて現はれるのが、普通であるが、然し月經の現はれるのは、婦人が妊娠をする資格が出來たと言ふ丈けで、直に妊娠に好適の時期と見ることは、勿論出來ない。

早婚の弊は、身體の諸機能殊に生殖器の發育が完備せざる間に、結婚によりて、重大なる責任を生じ、このために、身心の勞を多くし、尙ほ妊娠、分娩、產褥、授乳等のために、未熟の身心は、一層勞力を多くし、この爲めに自己の抵抗力を弱め、且其子供に惡しき影響を及ぼすものである。

年齢も行かぬ少女を嫁にやることは、不幸の海に投げ入れるのと選ぶ處は無い。

次に來る問題は、晩婚である、これも其の年齢の標準を定めなければならぬが、女子の三十歳以上の晩婚とすると、晩ければ、晩い丈け弊害が多いのである。

次は血族結婚の問題であるが、血族は、其性質他のものよりも相類似して居る所が多い、卽ち其極端なのは親子である、親と子を比較して見ると、其長所がよく似て居る代り、短所もよく似て居る、此短所が極端になると消滅してしまう。物質的に之が現はれると畸形である。精神的に現れると、精神に異常が出來る。此關係は、明に事實が證明をして居る處である。このことに就ては、何れ遺傳の話をする時に、もつと詳しく述べて見たいと思ふ。

許嫁の制は、全然これを廢すべきものである。殊に其性格が十分明でない時代に、雙方の親が、婚約をすることは、根本から間違つて居る。思想

の上から言へば、どうしても、當局の雙方が撰んでこれを定むべきものである。偶〻これを誤用するもののあるために、自由の結婚がわるいと言ふことは出來ない。

結婚は人生の最大事である、此所が禍福の岐るゝ六道の辻である、人生は、此辻を左右することによつて明暗が分れて來るのである。

故に人の使命を滞りなく、果さんには、完全な結婚を要する。完全な結婚にあらざれば、天道に適ひ、自然に合することは出來ない。

愛情も、道徳も、友誼も、家庭の團欒も、子孫の保健も、社會の風敎も、邦家の威權も、人類の進化も向上も、皆此完全な結婚によらねばならぬのである。

人生の發足點は、實に此結婚にあり。具眼者の注意を要する所である。



質疑

問・私事本年二十五歳に相成り平素は先づ壯健の方に御座候得ども此の一月極く輕き出産にて男子を分娩いたし候處嬰兒は生れてから後ち六日目に耳の傍に蒲萄狀の腫物を生じ候それがためか其の翌日遂に急病にて死亡いたせしが夫れより後ち私事膝から下方が重く家の中を歩行くにも不自由にて甚だ困り候ゆゑ早速醫師にかゝり候ところ血脚氣との診斷に御座候得ば引續き服藥いたし居り候へども今に快方に赴かず甚だ心痛いたし居り候に就ては甚だ御手數樣ながら右素人療法及攝生法等も御座候はゝ何卒誌上に於て御敎示に預り度此段伏して願ひ上げ候

三月五日　新潟會員某女

答 產前產後には往々此の如き症狀を發し易いもので殊に產後に多い樣である何れも一種の循環障碍から來る徵候であらうと思ふ脚氣と云ふ醫師の診斷が果して正當であるや否や充分確かむるが肝要です何れにしても血液の循環作用に障碍のあるものとすれば努めて是れが恢復に配意せねばならぬ循環障碍を來たす原因は種々ある脚氣も今日では其の一つと數へられてある故に攝生法も亦異なつた事はない即ち先づ安臥安靜を主とし常に暴飲暴食を制し換氣充分にして清潔廣濶なる住屋に起臥し陰鬱の氣候を避け榮養に富み且つ消化し易き食餌を採るに注意せられ是れには牛乳を最も恰適と思はる即ち一日に三、四合より五、六合或は其れ以上に用ゆる事です蓋し牛乳は啻に滋養性分に富有なるのみならず亦利尿の效あるからである亦我國の小豆も此の目的に應用せらる。藥劑としては已に醫師に治療を受けつゝあれば特に申述ぶる事もないが便通の順整を計る爲めに左記の處方が適當と思ふ。

硫酸マグチシア	一〇・〇
稀鹽酸	一・〇
苦味丁幾	二・〇
單舍利別	一〇・〇
淨水	一〇〇・〇

右一日量一日三回分服(持重を要す)

又身體殊に四肢を清潔にして患部は每日二三回宛「アルコール」にて拭ひ可成下肢を高位に保持する樣にせば宜しからむ。



○市立施療病院

曩きに三井家が慈善病院を建設せられ竣工したる事は既に揭載したるが今回東京市にても施療病院設置

の必要を感じ該案を市參事會に提出したるに二月二十三日の同會に於て之を決議したれば遠からず市會に提議して協贊を求むるに至るべしとの事なるが同病院設計の概要は左の如くなりといふ●場所は築地海軍大學校敷地内約千坪を海軍省より無償にて借受け此處に設置する筈にて斯く場所を此地に定めたるは同病院の醫員をば隣接の海軍々醫學校にて引受くる關係あるが爲めなりと●建築は木造二階建とし平面建坪約七百坪にて階上階下を通じ六十餘室に分ちて設置し別に隔離室をも設くる筈にて建築費豫算約十五萬圓なりと●收容患者は入院患者を大病室に二十五六人より十四五人中病室に二三人づゝ合計百四十五人迄は入院せしめ得べく又外來患者は一日三百人迄を診療し得るとの事なれば其收容力は三井家の施療院よりも多く又醫員は前記の如く海軍々醫學校より教官及び生徒約二十名を常に派遣して診療に從事せしむる筈なり又施療患者は駒込病院に送るべき八種傳染病を除くの外總ての患者を收容し一切無料にて診療入院を許す方針なりと。

○佛教最初の慈善病院

眞言宗各派聯合して創設したる『祖風宣揚會』といふがありて會長は土宜法龍師なり同會は濟世救民を以て目的とし先づ第一に設立計畫せしは慈惠病院にて明治三十六年六月以來これが經營に心を碎きしも日露戰役の際とて耳を傾くるもの少く同情の士もなかりき、然るに京都下京區東洞院五條下る所に小林參三郎といふ人あり英國に於て醫學を研究しドクトルの學位を得て後布哇に赴き同地の慈善病院の院長を勤むること十數年、多くの貯蓄も出來たれば現今の所に居を占めて安樂に日を送れるなり、氏は何か世を益すべき事業を起さんと思ふ折から祖風宣揚會が佛教主義を以て慈善病院を建設する由を聞き氏も佛教に歸依すること深ければこの事業に一身を捧げんと土宜會長を始め同會の理事等に自分の抱負と決心を語り無報酬を以て同病院に職を奉ずること及び布哇より持ち歸りし醫療器械五千餘點、書籍三千餘册を

寄附することをも申出でければ同會の喜び一方ならず早速快諾の旨を答へ慈善病院の名を『濟世病院』と名づけ致王護國寺門前なる道場を適當の敷地として其處に建設する事とし起工しけるに忽ちにして有志の人々より約一萬圓の寄附を得たればいよ〳〵本年二月二十三日上棟式を擧げ先づ婦人科を設置することゝなり薄命の人々を救ひ次に洋館を建てゝ外人を收容し東手敷地を開拓しこゝにも病室二棟を建て內外科を始め各科を設け他まで濟世救民の實を擧げ小林參三郎氏はこれが院長として永久其の職に就くべくかくして祖風宣揚會第一の事業は成りぬこれぞ佛教界に於ける慈善病院の最初なりといふ。

○痲疹の流行と親の注意

近來は三四歲より六七歲迄の小兒間に痲疹が流行する自分の預かつて居る病家丈けでも隨分多數である蓋し痲疹は五六年以來の大流行であらう其原因と云うては別にないが人として一度は必ず罹るもので一回やると免疫するなどゝ輕く見捨てゝ置くので其結果急激に傳播するのである併し斯病は素人の思ふ程輕いものではない成程痲疹そのものは左のみ重くはないが身體の未熟な小兒が斯病に冒された時は充分の療治を加へないと其餘病として氣管支加答兒肺炎を誘うて遂には生命にも關するほどの恐しい病氣となる初期は第一に差引き不定の惡熱を發し次で眼部に充血を來し時々嚔を起し三日を經過すると耳後に發疹して漸次全體に及ぼすのであるから小兒が少しでも發熱した場合には直に醫師の診察を受け充分に療養を加へ餘病の併起を豫防するのが肝要である。

○小兒の中耳加答兒

中耳加答兒は又中耳炎とも云ひて、急性慢性の二種類に區別し慢性は急性の永くなつたを云ふのである原因は概ね鼻、咽頭の急性加答兒に併發する病で、又急性の發疹傳染病、即ち痲疹、痘瘡、猩紅熱及び質扶垤里、腸窒扶斯(化膿性)等の續發症として起る症狀で、其特徵として惡臭ある分泌物を出す彼の耳漏は此の中耳炎である、御承知の通り耳漏は終日

異臭ある膿汁樣の分泌物を出し、見るさへ惡感を起す、而して加答兒性のものは疼痛、耳鳴、耳塞がりの氣味或は聽覺減少して一日乃至數日にして鼓膜(所謂障子なるもの)に穿孔を來し、分泌液を排出して右の諸症候は稍〻輕減するが、其鼓膜に孔の明くは多く前下部に生ずるやうである。併し是等は一寸見た所では判らぬけれど、耳鏡をかけて見れば素人にも容易く判る。又化膿性のものは劇痛、耳鳴は勿論、頭痛を發し、小兒にありては發熱、譫語をいひ數日乃至二週日にして排膿することは前の加答兒性と同一である、而うして一旦鼓膜に穿孔したものは再び元の通りにならぬ、爲めに物を聞く力が自然減ずるから、直ぐ前に居る人の話を聽くにも遠くなるのみでなく、漸次孔が大きくなるに從つて全く用を爲さぬに至るから、輕度の内に治療しなければならぬ、況して惡臭ある分泌物があつては自分で五月蠅ばかりか、他人にまで嫌はれる、其處を思へば放任して置く譯にはゆかぬ。療法は前の耳垢堆積の療法と大同小異である、併し之は前症と違つて流動體の分泌が出ますから、可成早く耳中を乾燥させねば慢性に變じ、治り惡くなりますから、矢張前症の如く洗滌し後ち沃土ホルム、又は硼酸末を吹き込み時々脱脂綿にて拭くが宜しい。尚ほ鼓膜に孔の明いたものには、ゴム製の人工鼓膜を用ゐれば多少聽力を補遺する事が出來る、又疼痛甚だしいものは倔利斯林にコカインを伍したものを點せば效能あります。

○三共合資會社の移轉

三共合資會社は事業の發展に伴ひ從來の營業所(日本橋區南茅場町)にては不便尠なからざるため、今回日本橋區室町三丁目十番地(三越呉服店向側)に洋式の巨屋を建築する設計なりたりといふ、而て其建築落成までは右敷地の一部(俗稱浮世小路)なる假建築家屋に移轉して營業することゝし三月中には全部其移轉を終了する由なり、又此假家屋も從來の營業場よりも手廣きものにて其階上に醫科器械並に新藥類の陳列場を設け醫家藥業家等の縱覽に供する由、斯くて同會社は此移轉と共に一層奮勵し大に斯界に盡すの覺悟なりと同會社員某氏は語り居れり。因に同會社に已に架設せられたる電話は「本局千六十五番」及「本局弐參九九番」なりといふ。

大日本婦人衛生會記事

○本會三月例會

三月六日（土曜日）午後一時半より神田一ツ橋通り女子職業學校内に於て本會例會を開き先づ石原學士は『ペスト病毒の傳播と蚤との關係』てふ題にて蚤及び鼠の標本數種の顯微鏡供覧あり抑も蚤がペスト病の傳播をなす所以に就いて種々調査し又實驗したる所の傳染病により多數の人が死亡せる事は國家の心配と其の費用とは國家に大害を及ぼし此の恐る可きペスト病菌は蚤鼠の媒介に由て人間の皮膚の疵所より侵入せる事を最も懇切に陳べられ次で栗本學士は『歐米の所感』の題下に歐米に於ける婦女と家庭に就いて述べられ賣淫的裝飾即ち佛國巴里に於ける踊子の引眉を爲し華美を凝らし又厚化粧の流行する事女子の監督としては青年男女の書簡往復は自由なれ共外出の際は女子は嚴重なる監視行はれ大抵母若しくは年長者の附添ふを常とし、又節儉主義に至りては男女とも流行を趁ふて華美に傾くが如き事なく上下共に『金を求めんとせば須らく儉約すべし』との金言を忘れず、歐米の主婦と下婢の關係に就いて我國にては主婦たるもの大抵は臺所一切を下婢に委せて自ら市場に行き品物を購ふが如きは頗る卑み且つ厭ふの風ありと雖も彼地にては主婦自から之れを行ふ下婢は一般に務に忠實にして之を名譽と心得居れり又下婢の權力は尊重せられ一家の子女と雖も之れを使役するを許さず却つて子女を叱責するの權利を有す之れを以て家庭は常に清潔なる空氣を以て充され決して混亂複雜する患なし之れを我國と比較せば如何ならん余は我國の家庭を紊すものは下婢と女髮結なりと斷言するを憚らざるなり故に此際下婢學校を設置するは實際的方面より最も緊要なる事柄なり云々と趣味ある講話を了せられ傍聽者無慮百餘名にして閉會を告げたるは同午後四時半頃なり、當日出席せられし役員は左の如しと。

田村きよ子　高木録子　岸すみ子
小川幸子　鳩山春子　石川貞子
三浦牧子　丹波貞子の諸氏なり

○新潟支會例會

二月二十八日午後一時より新潟高等女學校に於て當市婦人教育會と聯合の上にて例會を開き、出席者約三十五名にして當會講師澤田醫學博士の臨席あり當日講話せられし講師及び演題左の如し。

一、遺傳に就て　澤田醫學博士
一、家庭談　江口みつ子
一、婦人持有衛生について　和田くに子

○本會入會者

○事務所申込
●本郷區西片町十、イノ十五　贊成會員　伊藤弘一
●山梨縣南都留郡小立村賀司病院　通常會員　梶原里子

○伊藤弘一氏紹介
●本郷區西片町十、二ノ十九　通常會員　甫守ふみ子
●小石川區春日町四九、須田方　通常會員　堀口きみ子
●神田區駿河臺南甲賀町八　通常會員　後閑菊野子
●牛込區東五軒町五四　通常會員　矢作てつ子
●本郷區西片町十、二ノ十九　通常會員　市原すみ子

○松平芳子紹介
●赤坂區離宮裏門内　特別會員　馬場稲子
●赤坂區氷川町三　特別會員　保利久土方

○高崎支會
○藥谷操子紹介
●　通常會員　内田くり子
●　通常會員　山崎けい子

○新潟支會
○關やす子紹介
●　通常會員　鈴木ちゑ子
○和田くに子紹介
●　通常會員　鈴木そで子
○若松よし子紹介
●　通常會員　富山ちよ子

○轉居

●本郷區駒込神明町四五二へ　宮崎よし子
●肥前國佐賀郡神野村ノ内神野一八六へ　田中直子
●吳市清水通一七九へ　上野延子
●神田區表神保町二へ　齋藤ます子
●麴町區飯田町四ノ三一へ　篠山瀬生子
●麴町區平河町一ノ一一へ　奥田綾野子
●京橋區築地二ノ五へ　岡崎ふさ子
●日本橋區坂本町一四へ　田尻くめ子
●芝區汐留町官舍へ　松野薫子
●日本橋區久松町四九へ　稲村つる子
●清國大連乃木町九へ　佐藤逕雄

○會員改姓

●舊町村せん子　岡本せん子

高峰博士創製　（消化新劑）

タカヂアスターゼ

澱粉不消化の一般徴候　醫學博士谷口長雄氏曰く『……澱粉不消化に因する主なる徴候は胃の膨滿、疼痛、溜飲、腸内瓦斯蓄積、便秘若くは下痢等にして甚く營養の障害を來す起等の疾病に對しタカヂアスターゼの頗る有効なるを信ず』

胃腸の虚弱なる者は勿論病者虚弱者等に本劑を與ふれば食物の消化を迅速ならしむる爲め自然食慾亢進從て營養を增進す。本劑は粉末錠劑各大小容器入として各有名藥舖にあり類似模造品數多あり必ず高峰氏タカヂアスターゼと要指定、說明書御申込次第無代郵呈

佐伯氏創製　（滋養新劑）

グリコナール錠

醫學博士**北里柴三郎氏**指導の下に醫化學者佐伯矩氏が牡蠣の滋養成分に就き研究創製せる本劑は滋養劑として肺病及一般病者虚弱者に必適なるのみならず之を用れば自から心臟を強め盗汗を制止し速かに體力を恢復して元氣を旺盛ならしむる特異の効顯あり

用法一回四錠宛一日三回用ふ各瓶百錠入として發賣せり各地有名藥舖にあり

グリコナール說明書は直接發賣元に要求せられよ無代郵送す

パークデビス　（緩和下劑）

カスカラ糖衣錠

最も優秀なる緩下劑カスカラ、サグラダはパークデビス製藥會社が藥用として初めて治療界に提供したるものに係り同社は該越幾斯を服用に便ならしめんが爲に之を糖衣錠となせり本劑は啻に緩下の効を有するのみならず一般に腸の強壯劑として稱揚せらる又不快の副作用例へば腹痛の如き症狀を呈せざるは殊に本劑の特性にして總ての藥物中常習便秘に對して第一の特効藥とす

用量　二錠宛一日三回又は頓服として三乃至六錠を空腹時に與ふ一定時を經て緩和爽快なる便通あり

三共合資會社

移轉!!　藥局開設!!

本會社は事業の發展に伴ひ今回日本橋區室町三丁目十番地に移轉致候に就ては當分の間本會社發賣の藥名簽及其他の印刷物に記載しある町名番地は新舊混同しあるを可有之候ども其本會社發賣品たるに於て異なるを無之候間御懸念なく御買求被下度此段廣告致候也

東京市日本橋區室町三丁目十番地
三共合資會社

本會社内に藥局を開設し社員藥學士越澤[illegible]を其主任と爲し專ら懇切正確に諸大家の處方調劑に從事せしめ候間藥品販賣部同樣御眷顧御引立を賜はり度切に希仕り候

東京市日本橋區室町三丁目十番地
三共合資會社

新案特許一〇三六二號
衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを装置せるにより舊式のものゝ如く硬からず膚ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病を媒介する憂なし

丸髷	金十五錢より	金七十五錢迄
島田髷	金三十錢より	金壹圓五十錢迄
銀杏髷	金二十錢より	金六十錢迄
送料	各八錢	

◎諸かもじ製造販賣 東京市神田區豊島町十七番地 【振替貯金口座一八一八八番】 田中金三郎

◎小賣特約店
京橋南傳馬町 大西白牡丹 | 本郷三丁目 兼康 | 淺草駒形 百助 | 淺草駒形 紅勘 | 神田區須田町 三井屋 | 日本橋通二丁 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助
日本橋區田所町廿一 山三商店
同 横山町一丁目 安井治太郎
同 馬喰町三丁目 萬新商店

日本橋區若松町 松葉屋紋太郎
同 横山町一丁目 天野源七
同 馬喰町三丁目 阿部錠
同 橘町四丁目 角島村商店

日本橋馬喰町二丁目 飛川商店
同 横山町二丁目 江川小間物店
同 横山町二丁目 森本支店
外全國到る所の小間物店にあり

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼ねて一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙同金五錢●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ケ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條　一般慈善事業の幇助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を着用すべし●第十三條　特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

●會　告●

●前金切れにて會費未納の方は此際何卒至急御送金下され度御依賴申上げ候

振替口座東京　一〇六〇〇番

●去十二月の本誌には會員各位の御便宜を謀り振替拂込用紙を添へ置候

明治四十二年二月

大日本婦人衛生會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號　メッキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號　七拾錢（黒塗箱入 送費九錢）　六拾錢（桐箱入 送費六錢）

第二條　會員章は本會竝に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麹町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾四圓半頁其二分一以下同之　本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地　齋藤清之丞

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

明治四十二年三月十六日印刷
同　年三月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百三十二號（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍